



栃木支部報

目次

- p 1. __ 栃木の山本武志 !!
- p 2. -7. __ 会員投稿のページ
- p 8. -30. __ 2014 年度の活動の足跡
- p 30. -34. __ 2015 年度の活動の足跡
- p 35. __ 平成 26 (2014) 年度総会の記録
- p 36. __ 平成 27 (2015) 年度総会の記録
- p 37. __ 仙石さんの『古賀志山』
- p 38. __ 支部会員名簿、あとがき

8 号

栃木支部の山岳写真家山本武志をご存じか！？

日本山岳会本部には様々な同好会があるが、その一つに『アルパイン・フォトビデオクラブ』があって、山本武志会員は同クラブに属して素晴らしい写真を撮り続けておられます。



山本武志『晩秋の湖』

この写真は、2015 年 12 月 5 日(土)に京王プラザホテルで開かれた『日本山岳会創立 110 周年記念式典祝賀晩餐会』の催し物コーナーでご披露されました。

山本武志『茶臼岳』

この写真は、日本山岳会本部 HP の支部の山の紹介ページで見ることができます。なおこのあとのページにも山本会員の写真を掲載いたしました。



会 員 投 稿 の ペ ー ジ

1 山本武志会員からの『ネパール行回想』です

○4月25日ネパール中部で大規模な地震が発生し、数千人が負傷し、死者も近隣諸国を合わせると2500人を越えているそうです。

○もう46年も前になる話ですが、横浜からカトマンズへ海路と陸路をたどってのネパール旅を綴ってみます。

○ネパールには日本の江戸時代の徳川家と同じように、将軍家としてのラナ家があったそうです。1951年ラナ将軍家の支配が終わり、トリブバン国王が即位して王政復古になりました。日本と似ているところがあるのも面白いものです。

○1969年10月フランス郵船で横浜港を後にして、香港・バンコク・シンガポール・セイロン(現スリランカ)に寄港しながら、20日間の船旅の末、インドのボンベイ(現ムンバイ)に着きました。

○船中には色々な人種の人がいて船旅を楽しむことができました。寄港する前夜にはダンスパーティーが開かれましたが、山ばかりやっけてはだめだと思って学生時代最後にダンスを習っていたお陰で、いろいろな国の女性を相手に踊ることができたのは旅の良い慰めとなりました。

○バンコクに寄港した時には、すぐに親切な現地人が現れて市内の観光地を案内してくれたのですが、最後に法外な案内料を請求されて騙されたのがわかったものでした。この教訓が以後の海外生活に大いに役だったのを考えると、かえってこれはよい経験だったのかもしれない。

○ボンベイのジュフウ海岸に行った時には、英国のエヴェレスト隊がここで海水浴をした記録を読んでいたもので、流石にヒマラヤに慣れている連中だと感心したのを思い出したことでした。

○ボンベイ駅はイギリス風の造りが見事でした。ここで切符を購入した時に、「英語もヒンディー語もわからないようだがこの先大丈夫なのか」と女性の係官の目つきがそう語っていました。案の定、汽車での旅は苦勞が毎日続くことになりました。

○汽車の乗り換えがまた一苦勞でした。エヴェレスト隊が立ち寄り、川口慧海がネパール語を学んでいた場所がスゴリ駅ですが、ここで乗り換えの時間があつたので、付近の写真を撮っていたところ、警察に捕まってパスポートを取り上げられること

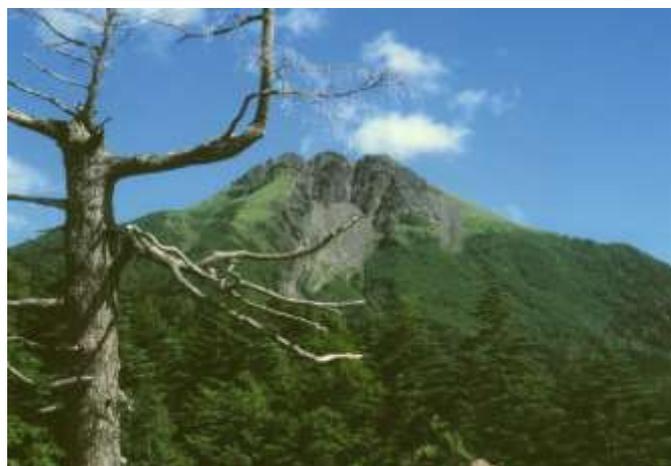
になりました。仕方ないので、カメラからフィルムを抜き出し感光させて、その上始末書を書かされて何とか無事放免となりました。

○汽車の旅も何とか終わり、インド側の国境の街ラクソールを馬車で通過して、やっとカトマンズ行きのバスに乗ることができました。とはいうものの、インド国内で大いに飲み食いしたのが原因で物凄い下痢になり、体調の悪い状態でカトマンズ入りをしたことになりました。それでもバスでダマン峠を越えた時には、遙か彼方に白い山々が見えてきて、やっとここまで来たかと身体が震えるほどの感慨に浸ったものでした。

○ネパール地震の映像を見て、一日も早い復興を願いながら本稿をしたためました。



秋山山行・室堂にて【2014・9・14(日)】
山本会員・渡邊支部長・神島一誓



日本山岳会本部HPには「支部の山」を紹介した頁があり、そのうち栃木支部ゆかりの山の写真6枚はいずれも山本会員撮影によるものです。これはそのうちの1枚で日光白根山(2578m)です。

2 上田会員から『マスターズクラブ山行』報告です

若葉山行・古峰ヶ原：2014年5月20日(火)

参加者：小島、関根、中村、早川、石井、鈴木、長、前田、上田の9名

○さぞかしつつじのトンネルが……と夢を膨らませていたが、まだつつじはネバネバの帽子をかぶったまま、あと一週間かかるかな？小島さんはちゃんと地図を配ってくださり、ありがたいことでした。ありがとうございました。古峰ヶ原峠より方賽山へ、諸事情により登山開始二班に分かれて出発、先発 9:45、後発 10:00 発。三枚石で合流、休憩お菓子をいただく。東国三つ葉つつじがところどころに花ばかりしっかりとつけて、ひと際目立っていた。オオカメノキ、朴ノ木の花の白さが若葉に映えて清楚に咲いていた。

○2011年の秋山山行の時と同じ場所で食事、食事後牧場に沿って横根山へ。帰途はハイランドロッジ経由で再び方賽山に戻り往路をたどった。

○花のある山には花の開花に合わせて行きたいと思うものの、自然の掟での開花はそう簡単にはいかない。

井戸湿原と地藏岳：2014年6月21日(土)

参加者：森、山本、前田F&Y(夫妻)、中村、関根、鈴木、上田の8名

○突然前田さんが車がない！！とのことで、朝の東武金崎駅には顔を見せず、一台前の電車で来た山本さんが、駅前のお菓子屋のご主人と話をしていた。烏山の住人の森さん、中村さん、関根さん、鈴木さんは道の駅「にしかた」で集合。粕尾峠へ向かう。峠より足尾に降りたところに登山口がある。古峰高原の一端であるが、雑木林に囲まれたほどの暗い感じの登山道であった。頂上で元気のいい声が何処からともなく聞こえてきた。古河市の蒼芭(アオバ)君、お初にお目にかかり、さっそく親子登山教室のチラシを送らせていただくことになった。彼の足の速いこと！身の軽いこと！うらやましい限りであった。

○復路は思川の源流となる分水嶺を見て峠に戻った。ハイランドロッジに行きここで昼食をとっていると、さっきの蒼芭君の甲高い声にあたりは再び明るくなった。まさに子供の声は天使の声だ、と。なんとなんと、前田夫妻が！！！！え？？小谷から駆け付けた！！まさか？であった。ゾウの鼻から湿原に下り、ワタスゲがところどころに見えた。そのうち空が怪しくなって、とうとう土砂降りの雨になった。東屋で雨宿り、ハイランドロッジへ向かい解散。【地藏岳：1274m】



銅山を脱出する人の粕尾越え
無事を祈るか頸欠地藏(くびかけじぞう)

by うえだ

田代山と田代湿原：2014年7月31日(木)

参加者：中村、関根、早川、石井、鈴木、前田Y
上田の7名

○計画の不手際で一週間前に案内を出す始末、行く前から鈴木さんが「車出してもいいよ」とおっしゃってくださり、お言葉に甘えてお願いをした。7:00にロマンティック村駐車場に集合、猿倉登山口に着いたのは9:30を過ぎていた。やはり会津周りで行くのはとおいなあ〜もし私だったら、10:00は過ぎていたでしょうと前田さんと話した。リュウキンカ、タテヤマリンドウ、ニッコウキスゲ、モウセンゴケ、サワラン、などなど山上の楽園は高層湿原の花々であふれていた。



田代山の山上の湿地ほんわかと地球の丸さを表しており

by うえだ

金精山：2014年10月18日(土)

参加者：山本、中村、鈴木、前田Y、上田の5名

○早めにいろは坂を登ろうとロマンティック村駐車場5:30集合、なんとそこで仲島さんに会った。磐梯山へいらっしやるとのこと。早々に鈴木さんの車、前田さんの車2台で出発。日光自動車道から見る女峰山のきれいなこと！！思わず歓声を上げなくなる。湯元駐車場に一台止めて全員で金精山トンネルの駐車場に行く。7:15出発。峠の神社で若者グループに会い、入会を勧めるが埼玉の人たちであった。岩陰に8センチくらいの霜柱、薄く雪が岩の上に・・・あ、あ、これが根雪になるのかな？国境平分岐までは順調に進んだが中ツ曾根尾根の歩きづらいこと！悲鳴が上がるくらい、高く生い茂る熊笹、深くえぐられている道、雨が降れば水路と化する、おりる、下りる、降りる、時間のかかる下山道であった。湯の湖、中禅寺湖畔の紅葉はきれい！というほど美しくはなく、まあ、よし！として今年の紅葉を見納めた。14:30いろは坂を通過。



急斜面金精山に取りつければ一望に見ゆ男体山家族に

by うえだ

仙人が岳：2014年11月17日(月)

参加者：前田F&Y(夫妻)、長、上田の4名

○岩切登山口8:30集合、バス停側に広い駐車場があり駐車していたら、バスの運転手にここはダメ！と叱られ、その反対側の路肩に3台駐車する。
○生不動、熊の分岐、順調に広々とした頂上に着く、昼食に早い、帰りはおそばを食べに行こうということで、だだっ広いところ、地べたに坐して食事。山火事の跡が痛々しく、黒こげになっているも、「生きるぞー」と言っているかのように下草にまみれて新しい松が生え始めていた。松はいったん燃えると発芽すると聞いたことがあったような？昼食もそこそこにおそばの誘惑に負けて出発。

561mのピーク、犬帰り鎖場、511mのピーク、あ、あ、ここも下山道の長いこと、2時間15分下って登って、しかもがっちりした岩のピークだ。登山口は「岩切」だ、岩盤が多いから岩切という名がついたのかもしれない。

○14:25に車に戻り、即お蕎麦屋へ……なんと月曜日は定休日！！あ、あ、ここで解散となりました。

山火事で黒く焦げたる松林仙人が岳で息吹き返す

by うえだ

石尊山と深高山：2014年12月20日(土)

参加者：仙石、中村、関根、早川、石井、鈴木、
前田F & Y(夫妻)、上田の9名

○仙石さんは『栃木百名山ガイドブック』でこの山城の執筆されたので、まさに願ってもない「著者と行く山旅」となった。石尊不動尊登山口 8:30 集合、何丁かを記す石が丁目ごとに頂上まであった。見晴らし台の石尊神社奥宮には釈迦岩・碁盤岩・屏風岩などが点在しているが、説明もなく名札もないので理解に苦しむ形の岩があった。展望はよく「あれが筑波、加波山でしょう？赤城？袈裟丸？」そんな具合で落ち葉を踏みながら深高山まで、10:50 着早川さん、石井さんが午後から用事があるということで早々に出発、仙石さんはこれから猪子峠まで下りて、バスがあればバスで、なければR.218を歩くとのことでしばしの別れとなった。振り出しに戻ると、なんと仙石さんはもう待っていてくださった。バスに乗ったらまだ発車していませんよ、と涼しい顔でおっしゃる。歩いたほうが早かったのだ。

○出発の前に足利の牛窪さんがお蕎麦屋の名前を教えてくださいましたが、メモを忘れ、どうせ誰かに聞けば分かるから…と高をくくっていましたら、誰もわからず、結局早川さん、石井さんのお世話で鑢阿寺の前のお蕎麦屋さんにお決まった。いざ足利へ…あ、あ、牛窪さんのお蕎麦屋さんあった!!!「あつはら」でした。後の祭りであった。そのようなわけで少し早い年越しそばとなりました。



奥宮のからす天狗に守らるる 石尊山の梵天祭り

by うえだ

2月陽だまり山行：2015年2月25日(水) 益子・高館山(302m)

参加者：山本、関根、菱田、北見、鈴木、長、
前田Y、上田の8名

- 山本さんがいらして下さるというのでお願いした。フォレスト益子 8:30 集合、鈴木さんも下見に来て下さったとのことで有難く、深々とした落ち葉を踏みしめて身体検査のようなお試しをしながら展望台に上る。空堀を何か所か過ぎて高館山頂に着く。本丸跡の大きな石がごろごろ、益子氏の城跡という。権現平で本来なら遠く、日光、那須の山々が見えるはずであるが、今日は心の中で見て、コーヒーブレイクとなる。いつも鈴木さんからコーヒーをごちそうになる。長さんがバームクーヘンを持ってきてくださり、有難くごちそうになった。
- 坂東札所 20 番札所、西明寺をお参りして、笑閻魔様とその奥様に御目もじして、昼食はこの会館で温かいおそばや冷たいおにぎりとお茶で暖をとり出発。一の沢の陶芸街道を抜けて、フォレスト益子へ。さてこれで解散？と思ったら全員芳賀富士へ行くというので、山本さんの案内で安善寺の駐車場から上る。頂上は桜の木が植えてあり何か温かい雰囲気を感じた。奥久慈男体山行のとき、静岡の富士山の前にまるで子供のように芳賀富士が座っているように見えたのが記憶に残っている。

富士山の前に重なり正座して 芳賀富士見ゆる子供のように

by うえだ

本山：2015年3月30日(月)

参加者：小島、仙石、関根、北見、石井、鈴木、
村田、前田Y、長、上田の10名

○子どものもり公園駐車場 8:30 集合。北見さんが数日前に下見をしてくださり、ありがたいこと、有難うございました。男山のカタクリの咲いている斜面をゆっくりと進む。あ、ここにも、あそこにも全員カタクリの虜になってしまった。このコースを仙石さんが“分県登山ガイド”で主筆していて、途中金採掘縦抗の説明があった。金がありやナシや…？榛名山、男山、本山を過ぎて、振り返ると今登って生きた山々が涸沢のカールのように見えた。こういう景色を見るとよく登ってきたなと思ってしまう。12:00 飯盛山山頂着、昼食。12:30 出発、来た道に戻る。途中シルバ一大学の登山部(?)がザイルワークの練習をしていた。公園駐車場 13:30 着。2月に益子の高館山へ行ったので、次は篠井富屋連峰の高館山に登りたいと思ったが、花を訪ねて、那須の南月山の峰桜を見に行くことになった。整理体操をして解散。

3 深谷会員から『JAC YOUTH 山行』報告です

深谷会員は栃木支部 JAC YOUTH 委員長として活動されています。平ガ岳山行は別掲しておりますので、それ以外の活動の報告です。

JAC youth 栃木・大田原高校夏山サポート

期日：2014年8月1日(金)～4日(月)

場所：槍ヶ岳・北穂高岳

参加者：大田原高校山岳部員 38名、顧問 3名
深谷篤志 (No.15212) …総数 42名

- 【8月1日】6:20 大田原高校を出発、私が在籍した当時は5人ほどの部員であったが今では総部員数50人、今回の夏山は生徒38名顧問の先生3名プラス私の42名という大人数での山行。私が参加したことのある山行としては最大の人数となった。
- 12:30 上高地着。気温30度、それでも天気も良かったこともあり大勢の人で賑わう。13:10 上高地発。大人数でありながらさすが高校生、ペースも速く15:50 幕営地の横尾着。16:20 夕立ちの中夕食の混ぜご飯をつくり、おかずをつまみに先生方と晩酌? 20:50 就寝。天気も良く星空が広がっていた。
- 【8月2日】3:00 起床。天気晴天。ヘッドランプでの行動となるが5:00 前には明るくなる。5:50 槍沢ロッジ着、林の間から槍ヶ岳が見え皆歓声を上げる。何度来ても思うが遠くに見える山の頂まで自分の足だけで1日で往復するなんて人間の力も大したものだと思う。7:00 大曲着、8:00 大倉分岐通過、11:20 槍の肩到着、40名を越すパーティーの割にハイペース。夏山は初めての1年生もいるが皆元気で日頃のトレーニングの成果が感じられた。ピークを目指す時は上級生が下級生の面倒をよく見ていて感心させられた。ここでは私も微力ながらお手伝い出来たと思う。ピークでは大人数の為、ゆっくりは出来ずすぐ下山開始。12:20 肩の小屋を出発し17:00 横尾着。夕食のソーメンがさっぱりしていて大変美味でした。
- 【8月3日】3:00 起床、この日は少し雲がかかっている。4:30 出発し7:30 に唐沢小屋に到着。今回の3年生は1年生の時来たことがあるそうなのだが、その時はかなり残雪が残っていて予定通りの行動が取れず悔しい思いをしたようで、今回はその思いを晴らすべく再度挑戦となったようだ。ここからは鎖場が出てきて大人数の為時間がかかったが、9:00 に南陵に取り付き11:00 北穂高岳着、頂上はガスっていて残雪もあり冷たく感じた。下

山時も少し手間取ったが皆元気に15:30 横尾に到着。先生方と祝杯をあげる。

- 【8月4日】最終日は4時30分起床。6:20 発。帰りは登山の疲れも見せず健脚ぶりを発揮、9:00 上高地着。アルペンホテル内のお風呂で山の汗を流し、往路と同様に借り上げバスにて18:00 無事学校に到着、解散となった。
- 今回栃木支部、母校の理解もあって無事、高校山岳部の夏山登山のサポートという行事を終えることができた。本当に有難うございました。高校生の皆さんはトレーニングの成果もあり、たくましくて登山を思い切り楽しんでいました。その傍ら先生方と一緒に母校のお役に微力ではありますがたつことができ私にとってもとても貴重な体験をさせていただいた。これからもお世話になった栃木県高校山岳部の力になれるよう行動していきたいと思っている。

JAC youth 栃木・大田原高校夏山サポート

期日：2014年8月22日(金)～23日(土)

場所：富士山

参加者：大田原高校山岳部員 31名、顧問 3名
深谷優子 (No.15382) …総数 35名

この項の文章は、栃木県高等学校
校体育連盟登山専門部が毎年発
行している『登山部報 2015』
より転載したものです。

- 【8月22日】午前中の補習を終え出発の準備を完了させ、借り上げバスに乗り込み13:30 出発。バスの中では、仲間と談笑している者、寝息を立てている者など様々だった。バスが目的に近づき富士山が見えてくると、各々の顔付が厳しくなってくる。これといったアクシデントもなく『PIKA 富士吉田キャンプ場』に17:00 着。手早く幕営。夕食は恒例のカレー。虫の多さや調理場の狭さと戦いつつ何とか完成。(米からご飯を炊くのは今回が初めてであったが意外とうまくいった。)苦労の甲

斐あって、この上なく身体に染み入る味であった。明日はついに日本最高峰に挑む。いったいどんな登山になるのか。装備は大丈夫か。最後まであきらめずに切り切りたい。交錯するいくつもの思いと不安を、期待と気合いに変えて就寝。

- 【8月23日】3:00 起床。まだ周囲が暗い中朝食をとり4:30 バス乗車。今回のテント場は一般の方もいたので、できるだけ音を立てずに静かに移動した。昨年は富士宮口からであったが、今年は5合目河口湖口(吉田口)から5:30 スタート。例の如く6合目までは全員でゆっくりと歩く。朝日がきれいだった。6合目からは自分のペースで山頂を目指す。自分は力也と那生と一緒に登った。目標は2時間。かなり速いペースで登ったが、それでも景色を楽しむ余裕があった。しかし7.5合目を過ぎた頃から霧が出てきた。気温も下がりカッパを着用。周りは真っ白で視界は数メートル先がやっとだった。それでもペースを落とさず、ちょうど2時間で山頂に到着した。山頂では雨が降っていてかなし寒かったので、小屋の中で皆が来るのを待った。(最終到着は4時間、先生にはかなり待たされた。)全員揃ったところでお鉢巡りに出発。剣が峰近くにさしかかった頃には、夏なのに雪(みぞれ?)が降り始めた。そのせいで、日本最高峰の実感はなく、ただただ「早く下山したい」としか思わなかった。下山開始11:50、御殿場口を目指した。大砂走りをひたすら走る。少し下ったところで天候回復。大砂走りは比較的楽しめた。下りも各自のペースだったが、稲見先輩は恐ろしいほどのスピードで下りて行ってしまった。さすが部長。全員が御殿場口に到着し、快晴の中(なんと山の天気は変わりやすいことか)、富士山をバックに写真撮影。14:30 御殿場口発。帰りはお約束の温泉。山の後の温泉は最高。来年は天候が安定することを祈る。

シニア&ユース合同訓練：2015年2月1日(日) 那須岳

参加者：前田F、深谷

- 今回は前田さんと私のトレーニング?を兼ね那須岳に向かうことになる。当日は雪がちらつき大丸駐車場でも風が吹いていたので天候によっては引き返す予定で出発。昨年末の支部忘年会の席で今度山をご一緒という話になり YOUTH で予定の冬山山行も兼ね、シニアの前田さんに相撲で言えば稽古をつけてもらうつもりで計画。元々私は栃木県高体連の先生方や仲間と登る機会が多く、同じような仲間と登っていたが、今回のように新たな大先輩と登る機会を得たことは新しい扉を開けた気分になった。これも栃木支部に入会させていただいたおかげだと思った。私も今年で40歳になるが、いくつになっても新しい扉の向こうには新しい出会いや経験が待っているのだと改めて思う。
- 登山は6:00に大丸の駐車場に集合し打ち合わせ、7:05に出発、指導所8:00、9:45 峰の茶屋、11:00に下山となった。指導所を過ぎ稜線に出た頃はかなりの強風になり、立っているのもやっとであった。私としては初めての体験となった。視界は良かったが、強風のため峰の茶屋から引き返すことになった。下りでは風で煽られ私は転倒、そのままゴロゴロ…風ってすごい…途中他のパーティーを会ったが、峰の茶屋まで着いたのは私たちだけ。
- 下山後インター近くのガストで昼食、前田さんの遠征の話や、過去の山行の話、死にそうになった話など楽しいお話を沢山聞くことができ、とても有意義なお昼ご飯となる。今回は峰の茶屋から下山したが、冬の那須もいろいろルートがあるので、稽古を積んでまた来てみたいと心に念じた。



2014年度の活動の足跡

2014(平成26)年春山山行

日時:2013年4月12日(土)~13日(日)

場所:新潟県湯楡曾芝倉沢、谷川岳・天神平

宿泊は成蹊学園山の家「虹芝寮」

参加者:山野井支部長, 渡邊事務局長, 森, 坂口
前田Y, 牛窪, 山本, 上田, 仙石, 長, 北見,
猿山(13日), 早川, 石井, 仲畠, 鈴木, 前田F,
藤田(東京), 熊崎(成蹊大), 金田(Dr) [20名]
山野井会長以下支部会員・支部外会員合わせて
18名

行動概要

4/12(土): 土合駅 13:00 集合, 13:30 発…虹芝寮
15:45, 夕食準備・懇親会

4/13(日): 起床 5:00, 朝食 6:00, 出発 7:00

【A班:天神平散策・上田, 長, 早川, 石井】
土合山の家 10:00…天神平 13:00…土合山の家
14:00

【B班:芝倉沢山スキー・渡邊, 猿山, 熊崎, 金田】
県境稜線手前…虹芝寮 11:40

【C班:虹芝寮周辺散策・山野井, 森, 前田Y, 坂
口, 牛窪, 山本, 北見, 仲畠, 鈴木, 前田F】

赤倉沢 1000m 9:00…虹芝寮 9:30、その後芝
倉沢へ向かい樹林帯上部…虹芝寮 11:15

土合山の家集合 14:00, 解散 14:30

○12日は天気恵まれ、土合駅前(一部は直接、土合山の家)にそれぞれ時間通り集合。前田夫妻、上田、藤田、仙石のグループは早めについたので、谷川岳遭難慰霊碑を訪れた。上田さんが献花するなど仲間を偲んだ。私もかつて栃木国体後に遭難した栃木岳連6名及び会社の仲間の名前を確認した。早いもので30数年が過ぎた。これからも安全登山を祈るだけである。

○土合山の家で参加者の簡単な自己紹介をした後、成蹊学園山の家『虹芝寮』に向け13:45発。入口からかなりの雪。45分ほどでマチガ沢出合いに来たが、ここで案内役の成蹊学園の熊崎さんより、この時期の通常ルートと山側ルートの選択の提案があった。結果として濡れるのを避けて、山側を取った。スキーを付けた熊崎さんの後を一行に進み、途中、休憩を入れながら15:45虹芝寮着。虹芝寮は芝倉沢の段丘に建つ立派な山小屋である。まだ小屋の半分が雪に埋まっているが、入り口の雪をどかし、小屋に入る。「虹芝寮お掃除哲学の心得」が徹底され、無人ではあるが非常にきれいに維持された小屋である。女性が2階、男性が1階を使うことで荷物を整理し、早速、夕食の準備に取り掛かる。

○今回の春山山行は自炊であるが、女性陣が多いため、献立も豊富である。他に個人で持ち寄った品や酒も加わり、豪華な食卓となった。懇親会では改め

て自己紹介や近況報告を行った。今回は、支部会員の他、国立登山研修所の講師でもある凍傷治療の権威金田正樹先生、当小屋の管理責任者でもある成蹊学園管財課長の熊崎和宏さんが参加。熊崎さんからは小屋の歴史などの興味深い話や山の歌としてよく知られる寮歌「薪割り、飯炊き、小屋掃除…」(山の友によせて)の紹介などがあり、今夜の宿に感謝するとともに、懇談にふけた。時間も経ち、前田リーダーより明日の予定の確認後、就寝。



○【13日A班】7時半過ぎ出発。まき割り、飯炊き小屋掃除、あと片付けもせずに帰ることに心苦しさの残る山行だった。6人で30分ほど一緒に歩いたが、先を急ぐ仙石さんと藤田さんに我々とは別行動をしていただいた。したがって我々は湯楡曾川の溪流の音を聞きながら、振り返っては武能岳を見て

いた。一ノ倉沢をバックに記念写真を撮ったり、昨日のことを思い出したりしながら歩いた。昨日疑問に思った種は周りに落ちている鞘を見て、サイカチの種であることが分かった。

おはじきのように平べったい。分岐点に9:45着。アイゼンを外して土合山の家へ。身支度を整えて10:00に長さんの車に便乗。日曜なのでスキー客が大勢いた。往復のロープウェイの券を買って乗車となった。

○ただっ広いゲレンデを見てなぜか滑りたい気にはならなかった。雪も重たそうだし、私は林間滑走がいい…ゲレンデのわきで谷川岳を登ってきた人が「あそこまで行くと景色が変わりますよ」と教



一ノ倉の岩壁を背景に

えてくれた。ゲレンデの奥、多分、田尻尾根が雪庇のようになっているところまで、ツボ足で登ると、何とさっき教えてくれた人の言葉通りの世界が目前にぶつかるように前にひろがっていた。谷川岳を中心に右手に西黒尾根、左手に万太郎の方へ、ぼこぼこ岩を見せた雪の山々、白毛門がデヘンとあり朝日岳、わからないあたりが清水乗越。こんなにも白いドレスをまとった多くの山々を見たのは何年来のことだろうか。4人とも大感激で前田さんに感激コールをしてしまった。石井さんの美味しいパン、長さんのあったかい卵スープをごちそうになった。谷川岳を登ってきた人たちが続々とシリセードで下山する。私たちも下山開始。

- レストランで上州武尊山の大きな山塊に目を奪われた。男体、白根はこの山の向こうのようで見えない。谷川の水のコーヒーを頂いたが4人ともそれほど美味しいとは思わなかった。1時過ぎまで展望を楽しみ、ロープウェイに乗った。田尻沢を何人かのスキーヤーが下山しているのが見えた。14:00 土合山の家着、我々が一番遅く到着した。前田さんに感激コールをした時点ですぐに下山開始をすべきであったが、15:00 集合なのでゆっくり構えてしまった。ありがとうございました。
- 1984年に登山復活で或る会に入り登ったのが、9月白毛門～朝日岳～蓬田峠を歩いて美しい谷川岳を見て憧れ、その後7月単独で天神平～茂倉新道、9月松手山～仙の倉～万太郎～谷川岳～西黒尾根と歩いた。冬山を教えてくれた人が「谷川の冬は行くな」と言われ、阿野川岳、小出俣山、タカマタギ、と雪の谷川方面組倉を眺めるだけ。今回4月の谷川に参加する事は信じられなかったが本当に良い天気、虹芝寮の帰りは武能岳、一ノ倉沢をバックに女性4人記念撮影。駐車場からゴンドラの駐車場に車で行き、ゴンドラで天神平に上がったが谷川岳本峰が遠くに見えた。前の尾根の急登に上がると本峰が目の前。青い空に素晴らしい姿を見せ、其処でおいしいパンや、ケーキをご馳走になり、下ってレストランでコーヒーを飲む窓からまだ本峰が見え堪能した一日でした。

- 【13日B班】虹芝寮前で集合写真を撮った後、B班：渡邊、熊崎、猿山の3名は、渡邊班長のビーコンチェックを受け、7:05 出発。無風快晴の中、順調に高度を上げる。朝方、雪温も低くてカリカリだったが、シールはよく効いた。樹林帯を抜けると目の前に広大でアルペン的な景色が広がり、わざわざ海外や立山まで出かけて行かなくてもこんな経験ができるんだと、改めて今回の山行を企画してくれた人たちに感謝した。中間部を過ぎてからは、斜面が立ってきて、シール歩行が厳しくなる。シートラーゲンにし登高するが、ピッチが上がらなかった。先行する渡邊班長はクトーを装着し順調にスキーで登っている。還暦過ぎの体力

ではない。熊崎氏もスキーを外し、兼用靴でアイゼン登高に切り替えた。私もキックステップの連打はきついので、アイゼンを付けようとザックを開けたが、入っていなかった。ばたばたと出発したせいか、車に置き忘れていた。

- 前夜の睡眠不足と 日頃の運動不足もあり、アイゼンがないのをいいわけにして、二人について行くことを諦めた。上部の「ノド」はブロック雪崩のデブリが半分以上の斜面を塞いでいた。ブロックが落ちきって安全と思える場所で昼寝をしながら、二人を待った。渡邊、熊崎両氏は尾根の少し手前まで登高し、下山を開始した。下山は登りのルートと同じだし、視界はノーリミットだったので、思いっきり滑降を楽しむことができた。他のパーティはいなかったのも、どこを滑ってもファーストシュプールで最高に快感だった。登りには苦労したが、虹芝寮まで滑り込むのはあつという間で、11:40 帰着。



- 【13日C班】C班は前夜の打ち合わせで、白毛門から湯桧曾川に落ちる赤倉沢に行くことにした。赤倉沢は白毛門からスキーで降りるルートにもなっているとのことである。7:00 記念撮影後、B班の芝倉沢山スキー隊と用事があり下山する仙石さん・藤田さん、天神平に向かう上田さんたちA班を送りだしたあと残った10名で赤倉沢に向かう。昔冬にスキーで蓬峠を目指したとき辿った湯桧曾川であるが、すでに4月となり本流は流れを見せている。渡るとこはどこかと歩いて行くと、赤倉沢

出会いの手前にスノーブリッジが残っていて左岸に渡ることができた。

○赤倉沢出合で小休止。出合でも対岸に渡ることはできるが、すでに大きな裂け目ができつつあった。ここから赤倉沢を登り始める。各自のペースに合わせて二股に到着。右の沢は狭いが、こちらが白毛門の山頂からきているようだ。二股を分ける尾根の末端には水が流れていた。集合写真を撮り、ここから降りる坂口さん達と分かれて上部の見晴らしが良さそうな左股に入り、再び登り始める。上部にデブリが見えたところで、9:00 見晴らしが良い尾根の末端の雪稜上に上がり、ここを最高到達点とする。ここまで着いたのは前田Fと北見さん、鈴木さん。標高は 1050m 程度と確認。ここからは湯桧曾川を挟んで谷川岳・一ノ倉岳・茂倉岳・武能岳そして蓬峠へとつながる稜線がよく見える。

○谷川岳登攀の歴史に思いを馳せ、一ノ倉の滝沢リッジ・スラブ、衝立岩、コップ状岸壁、幽ノ沢の左方ルンゼ・奥壁（トウフ岩）、そして虹芝寮の上にある堅炭岩の景観を堪能し下山を開始した。下りは早くあつという間に 30 分で虹芝寮に到着。少し休息後、北見さん・鈴木さん・前田Fの3人で、B班が入っている芝倉沢に散策に出かける。30分ほど歩き樹林がまばらになったところで写真撮影。国境稜線の大きな雪庇がよく見える。15分ほどで虹芝寮に戻った。



到達点より谷川岳（正面が一ノ倉沢滝沢リッジ）



赤倉沢二股にて
（今回の到達点は、左股奥に見える尾根の末端（雪稜））



土合山の家で解散

○【下山・解散】芝倉沢から戻ると、仲島さん・坂口さん・前田Yの三人が虹芝寮清掃の仕上げをしていた。とくに坂口さんが板の間の雑巾がけをしていたのには驚いた。すでに他の人たちが土合に向け下山しているのに、日山協会長を務めた山岳界の重鎮にやらすとは、さすが日本山岳会だと思った次第。「お作法」の心なのか。ただ、これが後の下山の苦労につながるとはこのとき誰も思わなかった。

○そうこうしているうちにB班の山スキー隊が帰着、最後の小屋の戸締まりをスキー隊に任し、残っていた歩きの7名（前田F、坂口、北見、鈴木、仲島、前田Y、金田）は先に下山を開始した。ところが、坂口さんが次第に遅れてくる。古傷の腰痛らしい（十数年ぶりとのこと）、スキー隊が追いついたところで荷物を分担してもらい、空身で下ることになる。アクシデントもあったが、好天のもと 13:30 には土合山の家に着いた。坂口さんも何とか到着、天神平班も戻り全員集合で記念写真、山の家に挨拶し解散となった。

○【追記】谷川岳には仲間が眠る。12日土合駅で集合する前に慰霊碑に立ち寄ってきた。二十年近くこなかったのではないだろうか。慰霊碑は左右に拡張され、目当ての名前を探すのに苦労した。上田さんが持ってきた花を捧げて合掌。



慰霊碑に花を捧ぐ

第1回役員会・事業委員会

日時：2014年4月5日(土)17:00～
場所：宇都宮市『コンセーレ』タイムズスクエア
参加者：役員18名中13名

- 山野井支部長から挨拶をいただく。春山山行の最終確認をする。通常総会の議案について協議する。

第2回役員会・事業委員会

日時：2014年4月26日(土)15:00～15:50
場所：宇都宮市『コンセーレ』タイムズスクエア
参加者：役員18名中14名

- 総会を前にして役割分担等の直前準備をした。さらに春山山行報告、支部だより・支部HP等の連絡があり、支部行事担当者等について協議した。

平成26年度総会、並びに懇親会

日時：2014年4月26日(土)16:00～19:20
場所：宇都宮市『コンセーレ』
2F カレアホール(総会)、バンケットホール(懇親会)
参加者：総会24名、懇親会25名

- 稲葉委員の進行で始まり、山野井支部長の挨拶後、仲嶋正子会員を議長に選び議事に入る。平成25年度事業報告(渡邊事務局長)・同決算報告(石澤委員)及び監査報告(坂口監事)・平成26年度事業計画案(渡邊事務局長)・同予算案(石澤委員)が提案され、全議案ともに全会一致で承認された。昨年設置された「JAC YOUTH 栃木の委員会」については、会員を増やして活動を活発化させたいとの意向が深谷会員から示された。
- 続いて渡邊事務局長から規約の一部改正が提案され原案通り承認された。「第13条 本支部の支部会費は、年額2,000円とし、毎年6月末日までに納めなければならない。」のあとに「但し、婚姻関係にある者が共に支部会員の場合は、いずれか1名の支部会費を免除する。」の条文が追加された。
- その他として、『「山の日」をつくろう栃木県協議会』等のご案内、支部報第7号の紹介、支部HPの報告等があった。また松井芳隆会員(05201)が昨年暮れに亡くなったことが報告された。謹んで哀悼の意を表します。
- 会場を2Fバンケットホールに移して、17:00より懇親会となる。進行は石澤委員が行う。会員25名が参加、会員のスピーチ等も差し挟みながら終始なごやかに歓談が続いた。
- 総会内容の詳細は、後述する総会記事を参照してください。

JAC YOUTH 平ガ岳山行

日時：2014年6月21日(土)～22日(日)
場所：平ガ岳(2141m)【】
参加者：麦倉常治(14529)、深谷篤志(15212)
行動概要
6/21(土)：鹿沼発19:00＝鷹ノ巣22:00
6/22(日)：出発5:00…平ガ岳10:20…鷹ノ巣15:00＝鹿沼19:30

- 平ガ岳はピークまでの距離が10km、高低差1300m。最初の急登で一気に800mを登り、残りの500mはだらだら登っていく。
- 前日からの雨。朝も小雨が降っている。軽めの食事をとり出発。駐車場から少し林道を歩き沢を超えて山道に入る。杉の樹林帯を抜け視界が開けた尾根になる。なかなかの急登で息が切れる。ゴア雨具着用だがすっかり濡れている。救いは気温が低いこと。2時間半登ってようやく下大倉に着く。ここから池の岳直下までは緩やかな登りで、気持ちにも余裕がでる。残雪もある。所々に木道があり、雨のせいでかなり滑りやすい。途中2カ所の水場では雪解け水を含んだが、登りで上気した身体には気持ちがよかった。池の岳に続く急な尾根を登りきると視界が開けて広い湿地が現れる。丁度花の季節で、シラネアオイをはじめたくさんの高山植物が咲いている。ここから30分歩き、平ガ岳10:20着。ドーム状の広いピークである。この頃になると、雨はやんだものの、冷たい風が吹き始め、雨に濡れた身体にはけっこうこたえる。
- 記念撮影後すぐに下山開始。池の岳で小休止。視界が開けてくる。景色は最高で人家も全く見えず深い山にいるという感覚が心地よい。この後はひたすらの下り。2回ある急な下りがつらい。鷹ノ巣15:00着。檜枝岐温泉で癒やされて、鹿沼に帰る。



第3回役員会・事業委員会

日時：2014年6月28日(土)14:00~14:45
場所：コンセーレ内タイムズスクエア
参加者：役員18名中11名

- 支部総会、「山の日」を作ろうシンポジウム、日光清掃登山、JAC総会、YOUTH活動等の報告があった。
- さらに第7回夏の山岳映画の夕べ、夏山山行、那須岳クリーンキャンペーン、秋山山行、ヒマラヤの集い、秋季講演会等について協議した。
- また乾能尚会員(09921)が6月11日にご逝去されたことが報告された。謹んで哀悼の意を表します。

第7回夏の山岳映画の夕べ (本支部とコンセーレとの共催事業)

日時：2014年6月28日(土)15:00~17:00
場所：宇都宮市『コンセーレ』大ホール
映画：『白き氷河の果てに』
(1977年日本山岳協会K2登山隊の記録)
講演：坂口三郎氏
(栃木県山岳連盟名誉会長、元(社)日本山岳協会会長)
『1977年K2登山隊の頃の登山界』
参加者：支部会員20名、一般20名、合計約40名

- 今回で7回目となる支部恒例の「夏の山岳映画の夕べ」であるが、開催前にはどのくらいの方が来場するか見当がつかず、当日の梅雨空の天候も心配の種であった。コンセーレとの打合せの際に、会場は当日他の団体予約もないため、直前に判断するというで進んだ。当日、コンセーレ高秀課長からは、問い合わせの電話も結構来ていたとのこともあり、高秀課長の判断で広い方にすることが奏功した。参加者は、家族同行者を含めて支部会員22名、一般68名合計90名と最近の映画会では久々の大勢の参加者であった。「山の日」制定の影響もあったかもしれない。
- 7回目となる今回は、支部会員(監事)でもある坂口三郎氏を講師に「白き氷河の果てに“1977年日本山岳協会K2登山隊の記録”」を上映した。講師の坂口氏からは、上映前にこの登山隊を編成した当時の登山界の時代背景などのお話があり、上映後には日本の山岳界の生い立ち的な話も含め、歴史的な内容のお話があった。一般参加者の人には別世界のような話であったかもしれないが、我々としては、長年登山界に関わってきた坂口講師ならではの話として、あまり知られていない内容に興味深く聞くことができたのではないかと思います。

平成26年度(社)日本山岳協会 栃木支部・コンセーレ共催事業 第7回夏の山岳映画の夕べ

第7回夏の山岳映画の夕べ

- とき 平成26年6月28日(土)午後3時~
- 上映作品「白き氷河の果てに」
(1977年日本山岳協会 K2 登山隊の記録)
- 講師 坂口 三郎 氏
栃木県山岳連盟 名誉会長
元(社)日本山岳協会 会長

演題 『1977年K2登山隊の頃の登山界』

平成26年から8月11日を「山の日」と定める祝日法が改正されました。この「山の日」の意義として、「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」と明記されました。講師である坂口三郎氏は、戦後から現在まで一貫して、栃木県はもとより日本の登山界にかかわり、登山界の歴史についても豊富な知識をお持ちです。今回上映される映画が製作された当時の登山界や背景、その後の海外登山の発展などについても、理解を深めて、この映画を楽しみたいと思います。

登山の難しさでは世界でも屈指の K2(8131m)に挑んだ日本山岳協会 K2 登山隊は、悪天候と雪崩の危険の中、困難を克服し、遂に1977年8月8日、9日、日本人初、二度にわたる K2 登頂に成功した。K2に挑んだ遠征隊の人間ドラマも見どころ。

- 定員 100名
- 入場 無料(申込み不要)
- ところ コンセーレ (栃木県青年会館)
宇都宮市駅前1-1-6 電話 028-624-1417
(交通のご案内) JR 宇都宮駅西口B-T、6-7番ホームより(国庫バス)乗換
「作新学院-教生行き」東中央バス停(コンセーレ前)

● **ビアパーティ(坂口さんの話を伺う会)のご案内**
映画会終了後(午後6時頃)、講師を囲んでのビアパーティ(懇親会)を開催します。初参加の者ひと押し、ビールを飲みながら、映画や山の経験で楽しく話しましょう。会場：コンセーレ内にて 会費：3,000円
参加希望は、6月27日土曜までに予約のしがきにて、お知らせ下さい。
「申込み済みの場合は、当日中に変更電話で連絡すること、当日のキャンセルは会費を返さず。」
連絡先(TEL) 090-9056-3132

- 映画は、私としては以前に見たものではあったが、改めて見ると以前とは違った何か懐かしさのある印象で鑑賞した。K2は栃木県の我々の仲間も昨年(2013年)7月~8月にかけて挑戦しているが、高所登山の登りに隔世の感があった。日本初のK2登頂を果たすため選抜された当時の精鋭たちによる登山隊は、35トンの食糧、装備を運ぶ延べ16000名にも及ぶ大キャラバンで、圧巻であった。今の登山では考えられない登山であり、当時のヒマラヤ登山にかけた情熱、参加したからにはサミッターにという各人の思い、登攀隊を選抜する隊長の苦悩など、記録映画としてはもちろんであるが、人間ドラマの映画としても見ごたえがあった。参加した人達もそう感じたのではないだろうか。
- 映画会の後は、恒例の懇親会に移ったが、今回は坂口講師にお世話になった会員外の方の参加もあり、坂口講師を囲んで最近の話題など、会員の懇親を深めた。
- かつて山岳映画は、夏になるとあちこちで上映されていたが、最近はこのような映画会も少なくなった。第7回を迎えた支部とコンセーレ共催の映画会は、記録を振り返ることや登山技術、装備などを知るという点からも、一般の人を対象にした恒例行事として残ることを期待したい。

日光清掃登山(栃木県岳連との共催) 【山の日制定プロジェクト】

日時：2014年7月5日(土)、7月6日(日)
場所：日光湯元キャンプ場、前白根山・五色山
参加者：前夜祭…会員2名、岳連等参加者20名
清掃登山…会員4名、一般4名
【全体では200名超】
行動概要：7/5(土)17:30～講演会、前夜祭
7/6(日)湯元発8:00…外山尾根取付8:40…前
白根山11:30…五色山12:30…湯元14:00、
解散

【7月5日(土) 日光の自然を考える集い、前夜祭】

- 山の日制定プロジェクトとして栃木支部での取り組みとして開催してきた清掃登山だが、本年山の日の制定が決定され新たなステージへと変化することになった。そのような中、本年も栃木県山岳連盟との共催で日光清掃登山が開催された。
- 梅雨のさなかにも関わらず、善行山ヤが集まる日光湯元は雨模様が回復し始めた。清掃登山前日に開催された「日光の自然を考えるつどい」では、講師に地元奥日光の自然保護活動に尽力されている伊藤誠氏(湯の湖荘のご主人)をお招きして、奥日光の本来あるべき自然の豊かさを維持継承するために必要な考え方や、好ましい行動についてお話しいただいた。特に鹿の食害対策については、積極的な働きかけにより夜間駆除を実施させたこと、白根山のコマクサや戦場ヶ原のニッコウキスゲについては、以前はあったはずのものであり、自然豊かさを守る観点でも保護するべきとのお話であった。地元の自然を守ろうとして実際に行動している講師のひたむきな姿は聴衆全ての心に響くものであり、夕暮れ迫る静かな奥日光の一時、日光の自然の素晴らしさと同時に、その自然を守る大切さをあらためて再認識する講演内容であった。
- その後、栃木県山岳連盟自然保護委員会主催の前夜祭が行われた。会場のキャンプ場の炊事場では、参加者が持ち寄った料理や飲み物に加えて各方面からの差し入れもあり、例年に比べて少人数ではあったものの、その分親睦を深められ、各団体の垣根を越えてなごやかな交流が図られた。

【7月6日(日) 前白根・五色山の清掃登山】

- 清掃登山当日は梅雨の合間の晴天に恵まれ、前日の講演会からの参加者以外に、当日朝集合した会員や一般参加者集合した。7:30 湯元のビジターセンター前広場での開会行事では、県山岳連盟会長

の喜内氏の挨拶と、共催団体として日本山岳会栃木支部からは渡邊事務局長の挨拶があった。

- 開会行事終了後、各山岳会に分かれての活動となり、本支部では昨年と同様に前白根山と五色山を経由するコースに向けて、会員2名と一般参加者4名の6名のパーティーで湯元を出発した。夏の青空の下、一行は湯元スキー場を抜け、外山尾根の取り付きで休憩後、そこから急登を気合いを入れて、汗をかきながら、ゴミを拾いながら登った。登山道脇には、コイワカガミやサラサドウダンなどが咲き、外山尾根の鞍部に出ると今年もミネザクラが迎えてくれ、それまでの急登の疲れを癒してくれた。登山道では回収するゴミも本当に僅かで、最近の登山者のマナー向上を実感することができた。拾うゴミは、かなり前に土に埋められたものと思われるものなどが、多くを占めていた。
- なだらかになった尾根道を進み、天狗平を越えて11:30 前白根山の山頂着。山頂付近には昨日の講演会で話題となったコマクサが今が盛りと咲いている。山頂で昼食休憩を取る。時折雲が切れて垣間見える白根の勇壮な姿に感動しながらのんびりと時間を過ごした。その後五色山に続く稜線を進みながら、進行方向右下に見える五色沼の景色を楽しんだ。五色山からは国境平に下り、中曽根を下る。雲が増えていたが、雲と木々の隙間から湯元の景色や男体山等の山並みが見えてきた。湯場見平で休憩して、湯元着14:00。回収したゴミを分別して集積場である湯の湖のレストハウスに出して、最後は参加者特典である温泉入浴をして、疲れと汗を流し、雨で濡れた身体を温めて、清掃登山の全日程を終了した。



親子登山教室

日時：2014年7月19日(土)～20日(日)

場所：学習院日光光徳小屋、山王峠、女峰山

参加者：親子・爺孫8組20名、講師2名、支部6名

行動概要：

7/19(土)：曇り、時々わか雨

光徳P(受付)9:30＝光徳小屋 10:10、開会式
10:30～10:55、昼食 10:55～11:55、読図・コンパス
使用法の講義 11:55～12:15、ハイキングに出
発 13:15…雷雨により山王峠手前500m地点から
引返す…光徳小屋 13:50…夕べの集い 15:00～
15:30…夕食 17:00…星座についての講義 19:00
～20:00…就寝 22:00

7/20(日)：曇り、時々わか雨

起床4:00…朝食5:10、出発6:00＝林道遮断機
6:20、準備体操後出発 6:35…女峰山登山口(林
道分岐)7:40…馬立 7:50…唐沢小屋にて昼食
10:00～10:40[雨のため登山中止・下山]…馬立
11:50…林道分岐 12:10…遮断機 13:20、同発

[小真名子班：山頂11:10…遮断機14:20]

14:30＝光徳P 14:50、閉会式 15:00、解散 15:10

【7月19日(土)】

○2012(平成24)年に開始された親子登山教室も今年度第3回目を迎え、親子8組20人、講師(博物館・山桜会長)2名、栃木支部スタッフ6名の参加で実施された。

○9:30より光徳駐車場で受付開始、降雨のため光徳小屋まではスタッフの車2台でピストン輸送する。10:10全員光徳小屋に集合。10:30から開会行事、自己紹介後、昼食並びに荷物を部屋に移動する。昼食後11:55より親子登山教室の参加者で日本山岳会栃木支部の事務局長でもある渡邊氏より地図の読み方・コンパス使用法などの講習。本日のハイキングコース及び明日の女峰山登山コースを地図で確認。初めて地図やコンパスを使用する親子もあり興味深く真剣に取り組んでいた。

○13:15 小学1年生の親子を先頭に低学年から隊列を組み山王峠ハイキングに出発。途中富永講師からキノコや植物等の講話がある。途中雨のため雨具をつけるが、山王峠まで500m地点で雨が強くなり引き返す。山王峠ハイキングは明日の女峰山登山のリハーサルを兼

ねた山行だったが、雨の中全員元気に学習院日光光徳小屋に到着した。

○15時から夕べの集いを行い、昨年も参加した最年長の高久智寛君が参加の抱負を述べ、また、スタッフから小屋使用上の注意や今後の日程等の説明を行い夕べの集いを終了した。

○その後、子どもとスタッフが夕食の準備を、保護者はミーティングを行った。子どもたちは、保護者の心配をよそに嬉々として夕食の準備を行う。またミーティングを通し保護者同士がお互いに親密になり、子どもの教育やら登山についての話に盛り上がった。17:00から夕食、夕食後に明日の朝食のおにぎりづくりを子供たちは、楽しそうに行った。19:00から星座の観測会を行う予定であったが、今年も天気が悪く外での観測会を中止し、屋内で富永講師から星の話をしていただいた。子供たちは熱心に興味深く聞いていた。最後にライトを点灯して、集まった虫を観測し20:00に講話が終了。

○天気こそ悪かったが、子どもたちはすぐに友達になり、自由時間には小屋の前の小川で遊んだり、広場で遊んだり、セミの抜け殻を見つけたり、小屋でかくれんぼをしたりと自然の中で楽しい時間を過ごしていた。22:00には全員就寝。



光徳小屋にて
開会式後自己紹介(2014.7.19)



山王峠ハイキング出発(光徳小屋前にて)
(2014.7.19)



山王峠への登山道にて (2014.7.19)



登山中植物やキノコの講話。(2014.7.19)



子どもたちが夕食準備
(夕食のメニューは？
(2014.7.19)



楽しい夕食 (全員そろっていただきます。)
(2014.7.19)

星座観察会 (天気が悪く屋内で富永講師の
講話が楽しかった。(2014.7.19)



【7月20日(日)】

○登山教室2日目 4:00 起床、4:30 より子どもはスタッフと朝食準備、保護者は、部屋の掃除と出発準備にあたる。朝食後本日の行動予定を確認し、小屋の前で記念写真を撮り 6:00 に5台の車に分乗し出発、林道遮断機わき駐車場に 6:20 着。準備体操の後 6:35 全員元気に出発。



林道遮断機わきにて準備体操。(2014.7.20)



準備体操後元気に出発 (2014.7.20)

○女峰山登山口(林道分岐)に7:30 到着。ここで小真名子班(4名)と女峰山班に分かれ7:40 出発。馬立を過ぎたあたりから雨が降り出し、雨具を着ける。雨が強くなったり弱くなったりする不安定な天候の中、水場を過ぎ、10:00 唐沢小屋着。雨が急に強くな女峰山班はここで登山中止を決定。小屋の中で昼食をとり 10:40 下山開始。小真名小班は富士見峠から小真名子山山頂 11:10 着。昼食後下山を開始。女峰山班は 11:50 馬立、12:10 林道分岐、林道遮断機に 13:20 に戻る。小真名子班到着まで車の中で待機。14:20 小真名子班が到着し、車5台に分乗して光徳駐車場に向け出発。14:50 光徳駐車場に到着、15:00 より閉会式。今回は日本山岳協会より修了証を参加者親子全員に渡し 15:10 解散。



唐沢小屋にて。女峰山班はここから引き返す。(2014.7.20)



小真名子山頂にて (2014.7.20)



小真名子山の登りと石楠花 (2014.7.20)



馬立にて休憩
(2014.7.20)

○今回は、梅雨末期の不安定な天気でも予定していたコースを踏破することができなかったのは残念であった。しかし、雨にもかかわらず元気に歩いてくれた子どもたちに感謝したい。今回の経験をこれから親子で登山していくうえでぜひとも活かして行ってほしい。予定したプログラムを全て行うことはできなかったが、『美しく雄大な自然にふれながら、親子の絆を深め、他人との協働と日光山系(女峰山)登山による自然体験を通して、心身ともにたくましく自立する青少年の人格形成の一助とする。』という親子登山教室の目的は達成することができたものと思っている。

○子どもたちが嬉々として夕食や朝食の準備をする姿、雨の中泣き言も言わず黙々と歩いていた姿を見て、スタッフ一同準備の苦勞が吹き飛んだ思いがした。本当に親子登山教室を実施して良かったと実感している。子供たちの元気な姿がある限り、次年度以降もこの事業を継続していきたいと思う。



閉会式

第4回役員会・事業委員会

日時：2014年8月23日(土)17:30~18:00

場所：奥鬼怒温泉郷『加仁湯』

参加者：役員18名中10名

- 夏山山行の宿泊先の『加仁湯』にて行う。明日からの山行の打合せを入念に行う。あわせて秋以降の行事について検討する。

夏山山行・懇親会

日時：2014年8月23日(土)~24日(日)

場所：奥鬼怒温泉郷『加仁湯』

奥鬼怒ハイキング、布引ノ滝、於呂俱羅山

参加者：会員など男12名、女7名の計19名

行動概要：

8/23(土)：加仁湯集合は女夫淵より徒歩またはバス
懇親会は全員参加

鬼怒川温泉駅 12:00 == 女夫淵から徒歩 or バス

女夫淵集合班 14:00 == 加仁湯 14:20

8/24(日)：朝食 7:00

○布引ノ滝班(7名)

石澤 Y、山野井、坂口、山本、中村、関根、石澤 R

加仁湯 8:00 == 女夫淵 8:30、8:50 == 野門先林道遮

断機 9:10...布引ノ滝展望台 10:40~10:50...林道終

点 11:05~11:15...第2展望台 11:30...林道終

点 12:15...遮断機 13:50 == 露天風呂入浴・解散 15:00

○於呂俱羅山班(10名)

渡邊、森、牛窪、仙石、前田 F、上田、長、前田 Y、

【ゲスト】藤田(東京)、小倉(東京)

女夫淵 8:50 == 山王林道登山口 9:30...鉄塔 9:40...
於呂俱羅山頂 11:15~12:05...山王林道登山口 13:40

その後解散

○別動班(2名)：麦倉 T & R(夫妻)

【第1日：8月23日(土)】

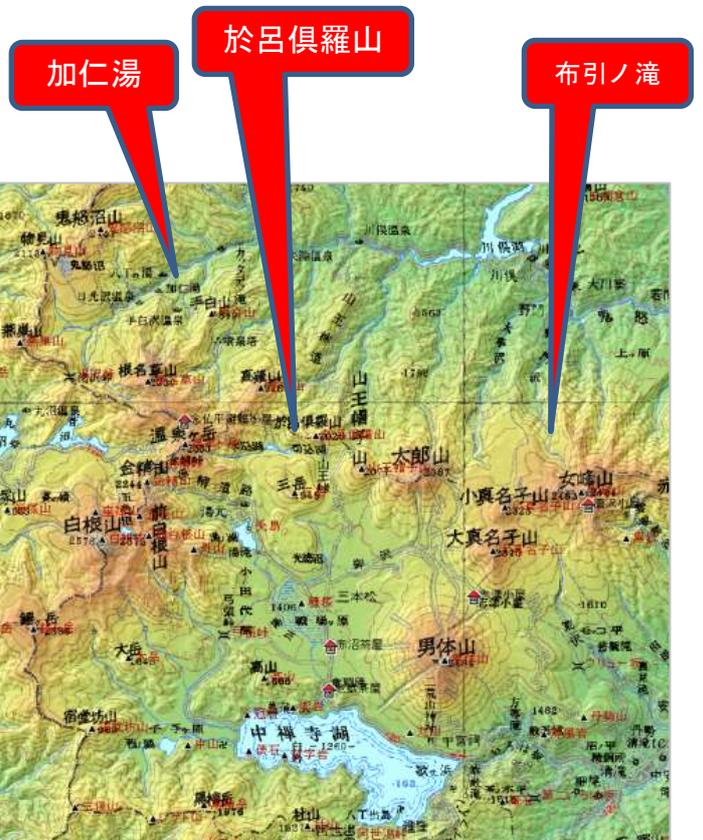
- 【加仁湯集合まで】東武鬼怒川温泉駅班10名は予定通り12:00に集合、関根、森と前田Fの車に同乗して女夫淵に向かう。山野井支部長、牛窪は送迎バスで加仁湯へ、女夫淵集合班を待つ前田Fを残して残り7名はすでに女夫淵に到着した仙石、麦倉夫妻と合流13:45分加仁湯に向け出発。女夫淵集合班は14:00に到着、坂口、石澤夫妻、山本は送迎バスで加仁湯へ。前田Fは送迎バスを見送って、先行する東武鬼怒川温泉駅班を追いかける。八丁ノ湯手前で合流し、八丁ノ湯で大休止、15:45雨には降られず全員加仁湯に到着。富士見峠を志津林道側から目指した上田・藤田パーティは時間切れで断念。送迎バスで温泉につかってくるつろいでいる加仁湯に到着した。
- 【懇親会】一日目の夕刻、各班毎に奥鬼怒の加仁湯入りした会員は、それぞれに濁り湯に遊歩道歩き

の汗や日頃の疲れを洗い流し、身も心も清めた後、宴会場に19名全員が集合。懇親会が始まる前に、記念写真を撮影後、くじにより各自席に着く。まず山野井支部長からの挨拶、坂口監事の乾杯の発声により宴会がスタート。各席では、旧交を温める話や最近の山の情報交換など、歓談のボルテージは、酔いが増すと同様次第に高まり、特に今回は女性の参加者も多く、大いに賑わった。会の途中参加者の近況報告があり、それぞれの活動や活躍を聞くことができた。懇親会の盛り上がり時間に時間を忘れるくらいで、最後は牛窪監事による締めの挨拶で、とりあえず一次会はお開きとなった。その後、役員部屋での二次会に突入、山間の涼しい空気を感じつつ夜が更けるまで楽しい時間を過ごした。



【第2日：8月24日(日)】

- [布引ノ滝班] 加仁湯玄関で集合写真を撮った後、温泉に残る麦倉夫妻に見送られて、加仁湯のバスにて8:00に出発。女夫湊到着8:30。ここで於呂俱羅山チームと別れ、関根、坂口、石澤の3台の車に分乗し8:50出発。家康の里・野門では祭りが行われているようで集落の中心部には、かなりの車が駐車してあった。野門の集落を抜けたところに駐車場があるが、林道を行けるところまで行く事にする。林道を2km進んだところに遮断機があり、ここに駐車する。出発準備をして9:10出発。林道をひたすら登る。
- 天気は曇りで暑くないのが幸いである。40分ほど歩いた林道から川俣ダムや野門の集落が展望できた。更に50分ほど歩き10:40布引ノ滝展望台に到着。ここで小休止。ここからは布引の滝が遥か遠くに遠望できる。ガスが出てきて見晴らしは良くない。記念写真を撮り10:50出発。途中砂防ダムの工事用資材置き場や飯場を過ぎ、林道終点に11:05到着。布引ノ滝までは時間的に無理なので遊歩道を歩き第二展望台まで行く事にし11:15出発。出発してすぐに雨が降ってくる。雨具を着用するが20ほどで小降りになる。第二展望台到着11:30。最初に到着した2人だけ滝が展望できたが、すぐにガスが出てきて滝を展望することができなかった。雨なのですぐに引き返す。
- 林道終点到着12:15。ここで小休止し、記念写真を撮る。雨は上がったが今にも降りそうな天気である。5分ほど下り、工事用飯場にて昼食。12:50出発。帰りの林道も長い。歩き疲れた頃やっと遮断機まで到着。13:50全員到着。日曜にもかかわらず登山者は途中で一人、下山口で二人、工事関係者一人にあってだけで我々だけの静かな山行ができた。林道が立派で終点まで車が入ることができれば、登山者も増えるのかもしれない。帰りがけに野門の共同浴場に行くが祭りで休みのため、四季の湯に行く。露天風呂で汗を流し、15:00解散する。



- [布引ノ滝班]** 女夫湊の駐車場で布引ノ滝班と別れ、車4台に分乗して川俣温泉から山王林道に入る。くねくねの道を対向車やツーリングのバイクに気をつけながら登山口に到着。駐車スペースは林道の脇に5～6台は可能である。夏山山行の担当幹事の前田文彦委員が7月12日に下見山行をしていただいているので、周りの山々を眺めながら丁寧なルート解説をしていただいた。天気は高曇りなので太郎山や三岳、涸沼等の景色を楽しむことができた。於呂俱羅山頂への登山道は、まず鉄塔に向かって進むことになる。鉄塔までは作業用の道がついており明瞭である。この鉄塔は、反対側の山王帽子山の中腹まで架線が架かっており何のための施設か疑問であったが、下山後に調べたところ鉄塔や索道工事のための訓練施設のようである。
- 鉄塔からは、渡邊が先頭で女性5名がそのあとに続き、前田(文)が最後尾の隊列で藪こぎのルートに入った。かすかな踏み跡やビニールテープの目印があるので迷うことはない。地図上の1789m Pは岩峰であり、ここは右よりから登ると簡単にPに立てる。ここからは360度の展望を楽しむことができた。三岳、奥白根山、奥鬼怒の山々、太郎山等々を遠望できるビューポイントである。この岩峰を慎重に下り笹藪と灌木の中を、かすかな踏み跡と目印をあてにし、GPSで確実にルートを確認しながら進んだ。1980mまでは急な登高が続き、足下も滑りやすいので、ゆっくりと慎重に、笹藪などをつかみながら登高した。ここからは広い台地を進むことになるので帰りのルートを考えながら、地図とGPSを確認しながら山頂に到着した。
- ところがそのとたんに、雨が降り出し本降りとなってしまった。チームの中に雨男・雨女がいるのでは？との会話では、全員が晴男・晴女という結論に達したのでこの雨雲を恨むしかないと言うことで落ち着いた。傘を差しながら、加仁湯のおにぎり弁当をほおばり下山にかかった。雨のお陰で木の根っこや笹藪の急斜面は滑りやすくなり、時折悲鳴じみた叫び声があがっていた。1789m Pの岩峰の下りも藪に捕まりながら慎重に下り、鉄塔まで下ってやっと一息ついた。このころは雨も小雨程度になり、車まで戻って解散となった。
- 前田文彦委員の下見山行（この時にスマートフォンを山中で紛失して大打撃を受けたという逆境を乗り越えてこの山行を企画していただいた）のお陰で、安全に楽しく於呂俱羅山を楽しむことができました。毎年恒例の加仁湯夏山山行は、布引ノ滝には届かなかったが、登山道のない於呂俱羅山に登り、今年も無事終了する事ができた。また懇親会も麦倉の司会のもと、麦倉夫妻、石澤夫妻、東京から来た藤田・小倉の両名など多彩な顔ぶれの中で楽しく過ごすことができた。来年は群馬支部からも参加していただけたらと思う。来年の夏山山行は、2015年8月22日(土)～23日(日)で、加仁湯を予約した。



秋山山行

期日：2014年9月13日(土)～15日(月)

天気は概ね3日間とも晴れ、夕方雷雨あり、ガスがかかる。

山行：立山トレッキングと立山黒部散策
登山研修会

宿泊：独立行政法人日本スポーツ振興センター
国立登山研修所(立山町芦峯寺ブナ坂)

参加者：山野井、森、井上、渡邊、坂口、前田 F & Y
牛窪、石澤、山本、中村、関根、長、神島 J、麦倉、
石井、仲島、鈴木、青山、神長、浜口、大倉、藤田、
石澤 R、斉藤、神島 I [計 26 名]

行動概要：

09/13(土)：宇都宮市(大谷 P) 5:00=鹿沼 IC=足利 IC=県南集合場所 5:55=足利 IC=有磯海 SA(昼食) 10:40~11:30=立山 IC (11:50)=立山カルデラ砂防博物館 13:00~14:40 学芸員解説付=称名滝 15:00~16:00=国立登山研修所着 16:15※研修 16:30~17:30※夕食・懇親会 18:30~21:30※消燈 22:00

09/14(日)：登山研修所朝食 5:45・出発 6:40=桂台 7:00=立山有料道路=美女平=

《A班》弥陀ヶ原ホテル 7:40~8:00 トレッキング出発…一の谷 9:30 獅子ヶ鼻岩…天狗平・昼食 11:40~12:50 天狗平山荘でバス乗車→室堂・散策 13:00~14:10

《B班》室堂 8:30~9:00…立山登山(雄山往復)…室堂 13:30~14:10 バス出発

=登山研修所 15:00※研修・夕食・懇親会 18:00~21:00※消燈 22:00

《C班》日立山駅 13:00=室堂 14:30…剣沢(幕営) 14日…剣岳…剣沢…室堂(合流)

09/15(月)：登山研修所朝食 5:30 出発 6:30=立山 IC=黒部 IC=宇奈月温泉駅 7:50、黒部溪谷トロッコ電車 8:17 発=樺平駅 9:33(散策1時間半) 11:04 発=宇奈月温泉駅 12:23 着=道の駅うなづき(宇奈月麦酒館・昼食 12:50~13:50)=黒部 IC=足利 IC 19:30=県南集合場所=鹿沼 IC=宇都宮(大谷 P) 20:30

【第1日：9月13日(土)】

- 今年の夏山シーズンは週末の度に悪天候に悩まされたが、天気予報は曇りと晴れで、雨マーク無し、計画通りに秋山山行が実施できた。また、人数的にも会員19名、ゲスト参加7名になり、ちょうど良い人数でまとまり、お陰様で楽しい山行になった。
- 宇都宮市の大谷市営駐車場を5:00 出発。鹿沼 IC から東北道に乗り、足利 IC で一度降り、県南集会所の足利市民体育館北側駐車場で、8名が乗り込み、総勢19名で出発。北関東道、上信越道、北陸道とつなぎ、一路富山県へ。有磯海 SA で昼食を食べ、立山 IC で降り、立山カルデラ砂防博物館へ。
- ここで現地集合の前田組、渡邊事務局長と合流、13時より少し前から見学。最初に3D映像を見て、概要を掴む。約22万年前に火山活動が行われ立山カルデラが形成される。1858年の地震で山が崩れ、立山カルデラに大量の土砂が流れ込んだ。常願寺川が一時堰き止められたが、二度決壊、3万石以上に相当する田地が土砂に埋まり、甚大な被害をもたらした。その後も度重なる災害が発生している。約50年後の明治時代になり砂防ダム工事に着手。自然災害との終わりなき戦いを、緑の復元状況を見ながら実感する。その他の研究では、2012年に発見された日本初の氷河について、南限を変えた歴史的な発見の説明を受ける。また、雪崩体験コーナーもあり、安全登山への理解を深めた。
- 14:40 博物館を後にし、バスで称名滝駐車場へ。駐車場から観瀑台へは登りで30分かかるが、四段に折れながら落ちる全貌を間近で見る。水しぶきがかかり、落差日本一の迫力に感嘆する。
- 16:15 国立登山研修所へ到着。渡邊所長から、施設利用のオリエンテーションと安全登山の講習を受けた後、各自部屋で寛ぐ。夕食と懇親会は、支部長あいさつで18:30 スタート。特別注文の日本海の刺身と、皆さんから差し入れのビール、日本酒、ワイン、バーボンにおつまみをいただき、宴もたけなわの頃、自己紹介を兼ねたスピーチが始まった。最後はアルコールを飲みきれず明日へ持ち越すことにして、宴の片付けをし、散会、消燈 22:00。



立山カルデラ砂防
博物館前で記念撮影

なお2015年11月29日(日)開催の『第9回山の講演会』の講師は、この博物館の学芸課長・飯田肇氏にお越しいただきました。ご縁があったんですね!!!

称名滝前で記念撮影(2015/9/13)



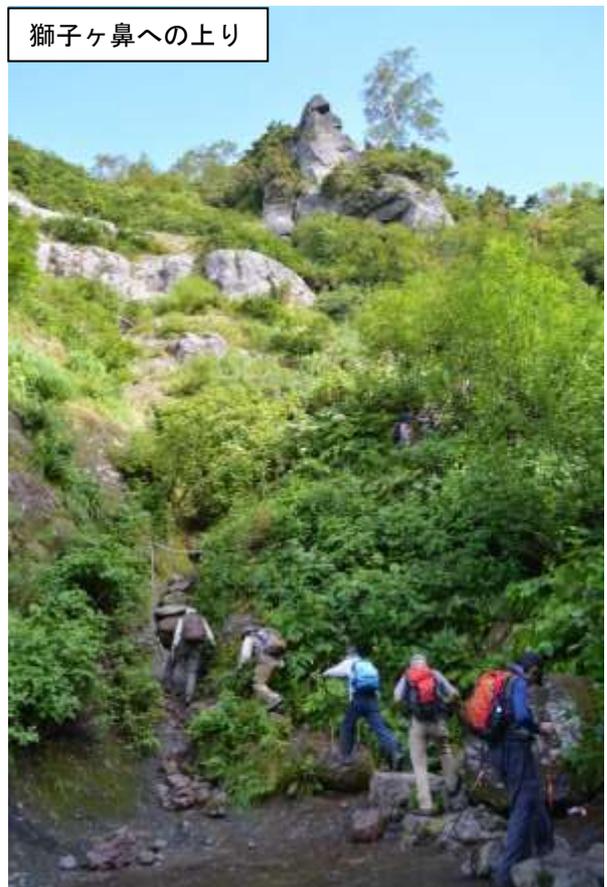
登山研修所で記念撮影(2015/9/14)



弥陀ヶ原ホテル前登山道入口



獅子ヶ鼻への上り



【第2日：9月14日(日)】

○5:45 から朝食をいただき、6:40 研修所を出発。貸切バスで桂台の有料道路料金所へ向かう7:00に料金所が開門し3番目に通過する。美女平から弥陀ヶ原ホテルまでの車中、360度の好展望が得られ、富山湾や薬師岳、大日小屋なども見えた。植生についても、標高475mの研修所から弥陀ヶ原まで約1500mかけ上り、豊かな自然の中、標高と共に変化に富んでいた。

《A班》

○7:40 弥陀ヶ原ホテル前で、A班森、井上、渡邊(リーダー)、坂口、牛窪、石澤、中村、長、仲島、神長、石澤(11名)[山野井支部長は、バスで移動しながら散策]は降車する。ホテル周辺を散策してから、弥陀ヶ原遊歩道に入る。立山弥陀ヶ原は、2012年7月大日平と併せラムサール条約に登録され、溶岩台地上に約1000個の池塘を含む風衝地湿性草原が広がっている。立山信仰では、地獄に落ちた餓鬼が飢えをしのぐために田植えをする場所とも言われている。イワショウブの葉はオレンジ色に色づき、チングルマは紫色を帯びた紅色に紅葉を始め、草紅葉を鑑賞しながらのんびりとした木道歩きを楽しむ。

○途中、本格的な登山道に変わり、立山信仰登山で一番の難所とされていた一の谷から獅子ヶ鼻岩へ向かう。9時30分谷に降り立ち、対岸へ橋を渡ると、巨岩の壁に鎖がかかる。標高差110mを慎重に登り、再び木道歩きとなる。目的地の天狗平が遥か彼方に見え、これから3キロ、300mほどの登りである。A班は楽勝と楽観していた分、延々と続く木道に

少しウンザリした。リンドウの花、ナナカマドの紅葉に元気づけられ、天狗平山荘での昼食を楽しみに、ひたすら歩く

- 11:40 天狗平山荘到着。各自カレーライスやラーメンに舌鼓を打つ。ここから剣岳が見えるのにと残念そうな小屋の御主人は、映画『剣岳点の記』他にご尽力されたようだ。



《B班》

- 今年の登山研修所を拠点とした秋山山行の中日14日は、弥陀ヶ原～天狗平へのトレッキング班と室堂から立山頂上を目指す登山班に分かれて行った。前日集合前に時間があつたので芦峯寺の雄山神社に参拝した(前田F・Y, 斉藤)ご利益か、当日朝から空は晴れ渡り、気持ちよい山行が期待できた。登山研修所からチャーターバスに乗り渡邊事務局長のガイドを聞きながら、途中でトレッキング班を下ろし、予定より30分早く室堂に着いた。前日の渡邊登山研所長の講義にあつた、「急激に高度を上げているので30分は室堂で体を慣らすこと」の注意を守り30分後に出発前記念撮影を行い、一路一の越から立山へ目指した。室堂から見て立山の右の肩に当たる一の越へは整備された登山道が続く。天候が今ひとつだった8月に対し、この三連休は好天が見込まれたせいか人出はだんだん多くなる。一の越から山頂への急登にそなえ、大日岳や雷鳥沢からの別山乗越への登りなど周りの山々を眺めながら、1時間ほどで一の越に到着した。

- 一の越で体力・スピードにあふれる神島親子に立山三山の最高峰である大汝山まで行ってもらうことにして、関根、鈴木とともに先行で出発してもらおう。雄山への登りは本格的登山道の登り、三連休の中日とあって人出は多く渋滞。そのうちにガスがかかり初め、周りの風景が見られない中でひたすらGo & Stopの登りとなる。途中、前田Yはなぜか腰が痛くなり一人下山。人の列から外れ脇に登りたい誘惑を押さえ、1h30mかかるとみたところ、何とか1h15mで雄山神社山頂社務所に到着。ここには先行した関根、鈴木がいた。山頂神社祈願で時間がかかり大汝山往復は断念したとのこと。混雑している社務所の脇に集まり昼食、その間に石井・斉藤・前田Fの3名は祈願を行った。今まで何回となく雄山には来ているが、お金を払って祈願してもらったのは初めて、良い記念となった。

- 時々天空に青空が見えてのんびり過ごしている間に、神島親子が大汝から戻ってきた。全員そろっての記念撮影後、下山を開始。一の越までは渋滞、午後になってもまだ登ってくる人も多い。横をすり抜けながら一の越着。全員降りたのを確認、トレッキング班が待つ室堂を目指す。途中道の脇に咲いた黄色の花に目を取られつつ、青空が広がる室堂

- 12:50 バスで室堂へ向かう。B班、C班と合流するため、14:00まで自由行動。写真を撮りながら散策していると、A班もそろそろ到着の情報が入る。みくりが池では、剣岳に登っていた麦倉さんと合流。カニのタテバイ、ヨコバイでは登山者で渋滞していて、時間に間に合わないかもしれないとあせっていたようだ。



に到着した。



《A班・B班合流》

○14:10 室堂に全員揃ったところで記念写真を撮り、バスで登山研修所へ向かう。15時研修所到着。18時から夕食・懇親会。2日目の懇親会も盛会であった。今年の秋山山行は好天に恵まれ、神社参拝も無事済まし、ガスにまかれ山頂から周りの山々を眺めることができなかつたのは残念だったが、良い山行を楽しむことができた。立山には皆さん色々思いがある。中村さんは、50数年前の新人の頃、追分から重いキスリングを背負って歩いたことが山登りの原点だったという。東京から来た大倉さん、浜口ドクター、支部山行に毎回参加の藤田さん、ありがとうございました。



物を見つけているうちに、樺平到着 9:33。駅のホームが長く改札を出るまでに10分経過。特別天然記念物猿飛峡を往復する。足湯に入る予定が、残り時間は15分で、時間が足りなくなってしまう断念。東へ向かい、奥鐘橋を渡り、人食岩を見学し、慌ただしく樺平へ戻る。



【第3日：9月15日(月)】

○4:30 起床。部屋と分担の場所を掃除し、5:30より朝食。6:30 国立登山研修所出発。立山 IC から北陸道に乗り、黒部 IC で下車し、宇奈月温泉に 7:50 到着。予約していた黒部溪谷トロッコ電車は 8:17 発で、出発まで少し時間があり、鉄道の人に樺平に着いたらどこを散策するかおすすめを聞く。
○普通客車はオープン型で景色は見やすいが、山用のダウンウェアを着こんでも寒かった。1h16mの乗車で、車内放送に見どころを案内され、忙しく目的

○11:04 発で、複路に就く。帰りは窓付きの特別客車でゆったり乗る。宇奈月温泉 12:23 着。道の駅うなづきに 12:50 着、宇奈月麦酒館でお昼をいただく。会費の中に昼食代は計算されていなかったが、懇親会費用が差し入れをいただいたおかげで浮き、バイキングになっている食事代を出す。ビール代は各自で清算し、お土産も見て 13:50 発。黒部 IC から北陸道に乗り、信越道の佐久あたりから渋滞になる。予定より 30 分ほど遅れて、足利に 19:30 着、宇都宮には 20:30 無事到着した。



第5回役員会・事業委員会

日 時：2014年11月29日(土)14:00~14:45
場 所：コンセーレ内タイムズスクエア
参加者：役員18名中12名

- 各種行事報告、ならびにこれからの支部行事の打合せを行う。さらに続いて開催される『第6回ヒマラヤの集い 講演会』の役割分担をする。

第6回「ヒマラヤの集い」講演会 (本支部とコンセーレとの共催事業)

日 時：2014年11月29日(日)15:00~16:40
場 所：宇都宮市『コンセーレ』アイリスホール
講 師：八木原 罔明氏(群馬県山岳連盟会長)
演 題：「群馬のヒマラヤ登山」
参加者：本支部会員19名、一般31名、計50名

- 本支部と栃木県青年会館との共催で例年実施している社会貢献事業：「ヒマラヤの集い」も今年で6回目となった。講師は八木原罔明氏。言わずと知れたヒマラヤのスペシャリストである。冬期アンナプルナ南壁、冬期エベレスト南西壁を初登攀に導くなど、世界屈指のヒマラヤ登山家として知られている。谷川岳山岳資料館の館長、群馬県山岳連盟会長、日本山岳協会副会長など登山界の要職を歴任する日本登山界の大御所である。
- 当日は、山野井支部長の挨拶と講師紹介に続き、講演が開始された。八木原氏からは、「群馬のヒマラヤ登山」という演題で、数多くの失敗と悲劇を乗り



八木原講師と謝辞を述べる坂口監事(右)

越え、数々の隊員とヒマラヤへ挑戦してきた記録を話していただいた。1974年のダウラギリIV峰の登頂から、まさに命を懸けたお話に観衆は引き込まれた。エベレストの登山も今とはずいぶん違ったものだったことを伺った。山登りを長年やってきて、隊長として組織を運営してきた八木原氏の隊員選考の苦悩、昔の経験と後輩に引き継いだ現状、今後の登山界のことなどが熱く語られた。講演終了後、活発な質疑応答が行われ、盛会の内に幕を閉じた。

- その後は、いつものタイムズ・スクエアで、八木原氏を囲み、栃木県山岳連盟会長の喜内氏のご臨席も賜り、会員同士の懇親会が開かれた。その中では、渡邊事務局長の発案で坂口監事の米寿を祝う席を設けた。坂口監事には支部発足以来運営、指導を頂戴しており、その感謝の気持ちと末永いご健康を願い、バラの花束を贈呈させていただいた。YOUTHの深谷氏が差し入れてくれた蔵出しの新酒も振る舞われ、大いに盛り上がった。

第8回「山」の講演会 (本支部とコンセーレとの共催事業)

日 時：2014年12月14日(日)15:00~16:50
場 所：宇都宮市『コンセーレ』1階大ホールA
参加者：会員18名、一般53名、計71名
講 師：福田俊司氏(動物写真家)
演 題：「奥日光からシベリアへ アムールトラを追って」

講師略歴

- 昭和23(1948)年宇都宮市生。動物写真家。宇都宮高校、上智大学法学部卒業。長年にわたりロシア極東部秘境で活動。取材日数は1,800日に及ぶ。公益社団法人日本写真家協会会員、ロシア科学アカデミー極東支部海洋生物学研究所名誉会員、レニングラード・ハンター&釣り人クラブ会員。
- 2013年10月、イギリスで開催される世界で最も名誉ある自然写真コンテスト「ワイルドライフフォトグラファー・オブ・ザ・イヤー・コンテスト」の中で、絶滅危惧種に対する注意を喚起することを目的とした特別賞「ジェラルド・ダレル賞」を、日本人として初めて受賞。
- 2014年、王立自然史博物館は、福田氏が撮影した“アムールトラ”を“ネイチャーフォト50年の歴史を代表する作品の一枚”に選出し、永久保存作品として収蔵。
- 著書に、「シベリア大自然」(朝日新聞社)、「シベリア動物誌」(岩波書店)、「シベリア博物誌」(偕成社)、「ウスリートを追って」(偕成社)、「ホッキョクグマの王国」(文一総合出版)、「タイガの帝王アムールトラを追う」(東洋書店)他。

○12月に入っての第二日曜日ともなると、年末の諸事に忙殺されて講演会に参加される方は期待できないなと思っていたが、70名を越える参加者で大ホールはほぼ埋まるほどの盛況ぶりであった。

○小島守夫委員の開会の言葉に続いて、福田講師とは宇都宮高校の同級生である仙石富英会員から講師紹介をしていただき、講演となる。

○はじめに地球温暖化によってホッキョクグマ等の繁殖が激減していることを話され、続いてホッキョクグマとの対決シーンの話をされたが、映像を交えてのお話しだけに、参加者一同すっかり話の虜になってしまった。その後は少年時代の経験からシベリアに興味をもつようになったこと、奥日光での体験、シベリアに行くことになった経緯等をはなされた。特に「シベリアは遥か彼方の極寒の大地ではなく、私が小さい頃に見た戦場ヶ原の風景そのものであった。シベリアは僕の戦場ヶ原だと思った。」との言葉が印象に残った。

○そして本日の演題であるアムールトラの話へ進む。生息数が極めて少なく、ロシアで300頭ないし350頭ほどしかいないそうで、非常に用心深く、またテリトリーが雄だと東京23区ほどの面積に1頭といったところで、したがって現地のかたでさえ20年に1回とか2回といった頻度でしか目撃できないのだそうだ。そういう状況の中で、撮影小屋に籠ってようやく50日目に野生のアムールトラの目視撮影に成功した苦労話には、すっかり引き込まれてしまった。

○最後に坂口三郎監事からお礼の言葉があって散会した。なおその後は2階のカトレアにおいて、福田講師ご夫妻にも参加をしていただき、支部忘年会兼懇親会を行った。



みなさん熱心に聞き入っています



映像を交えながら講演される福田俊司講師



謝辞を述べる坂口監事



撮影中の福田俊司講師



福田俊司講師ご夫妻を囲んでの楽しい宴です

第6回役員会・事業委員会

日時：2015年1月24日(土)15:30~16:40
場所：日光湯元『湯の湖荘』
参加者：役員18名中9名

○明日の山行の詳細を検討。さらに『3支部+群馬支部合同懇親会』・春山登山の打合せを行う。

新年会・冬山山行

日時：2015年1月24日(土)~25日(日)
場所：日光湯元『湯の湖荘』、高山(1668m)
参加者：日下田、山野井、渡邊、坂口、牛窪、前田、石澤、上田、中村、長、猿山、青山、村田〔ゲスト〕藤田:14名
行動概要：
1/24(土)：宿直 or 東武日光駅集合後==湯の湖荘
役員会 15:30~16:40...新年会 18:00~20:00...奥日光氷彫刻フェスティバル 20:00~20:30...2次会 20:30~22:00
1/25(日)：朝食 7:00==竜頭の滝P 8:20、発 8:45...高山 10:55~11:25...竜頭の滝P 12:45、解散 13:00

【第1日：1月24日(土)】

- 前田・上田・藤田の3氏は、午前中に到着し奥日光氷彫刻フェスティバル会場の氷彫刻を見学し、さらに湯元スキー場でスキーを楽しんだ後、宿泊先である「湯乃湖荘」へ。又、長・坂口両氏がマイカーで直接宿へ、他の9名は東武日光駅で待ち合わせをし、渡邊・石澤・猿山の車に分乗し宿に行く。天気も良く暖かく道路にもほとんど雪がなくスムーズに宿に着くことができた。
- 宿の好意により、会議用部屋を準備していただき、15:30~16:40 役員会を開催する。役員会終了後温泉に入ったりテレビを観たりしてくつろぐ。

○18:00 より山野井支部長の挨拶、日下田前支部長の乾杯で新年会を開始。今回は新入会員の村田氏が初参加。彼女の歓迎及び自己紹介を兼ねて近況報告を行った。お酒が入るにつれ大いに盛り上がったが、20:00 坂口監事の中締めで一次会を終了。

○その後ライトアップした奥日光氷彫刻フェスティバル会場の氷彫刻を見学する。見事な彫刻であったが数が少ないような気がした。宿に戻り20:30より役員会で使用した部屋で2次会を開く。参加者からの差し入れのお酒やつまみ、そしていつもことながら深谷会員から差し入れ頂いた「武勇」の美味しいお酒を堪能し大いに盛り上がる。22:00 渡邊事務局長の締めで2次会をお開きにする。



【第2日：1月25日(日)】

- 7:00 に朝食をとり、登山をしないで帰る日下田・坂口・中村氏、そして宿に残る山野井氏と別れ、5台の車に分乗し8:00 過ぎに宿を出発。竜頭の滝上の駐車場に8:20 に到着し出発準備後、8:45 出発。雲が少しあるものの風もなく絶好の登山日和だ。
- 渡邊・牛窪・猿山3氏は山スキーで、他の7名はツボ足で登山する。ルートはしっかりとした踏み跡があり迷うことはない。登山口から15分程歩いたところで夏道と別れ尾根筋をたどることにする。かなりの急登で喘ぎ喘ぎのぼる。稜線に着くまで一汗かかされる。その後稜線をたどり夏道に合流したところで、スキー組と合流。牛窪氏は途中から駐車場に戻ったとのことである。会う人も風もなく静かな雪山楽しみながらの稜線歩きとなる。最後の急登を登りきると高山(1668m)である。頂上着10:55分。山頂で記念写真を撮ったり、行動食を食べたりしてのんびりと過ごす。山頂の積雪は50cm と思った程多くなかった。
- 11:25 山頂発。帰りは上りに苦労した斜面を尻セードやつぼ足で快適に下る。帰りは夏道を通り12:45 駐車場に到着。下る途中4~5組の登山者とあったが、登山者も少なく本当に静かな山行であった。唯眺望が利かないのが残念であった。
- 駐車場で閉会の挨拶をした後13:00 解散する。宿に戻る石澤・牛窪・青山・長氏以外はここで昼食の後帰途に着く。山野井支部長の待つ宿へ着いた4氏は風呂に入ってから14:00 帰途に着く。



第8回・三支部十群馬支部 (4支部)合同懇談会

日 時：2014年2月7日(土)～8日(日)
場 所：千葉県館山市『ホテル川端』
房大山登山、お花畑見学
参加者：栃木支部4名(坂口、上田、長、渡邊)、
千葉・茨城・群馬支部も含めて総数37名
行動概要
2/7(土)：開会行事、各支部報告、講演会、その
後合同懇親会
2/8(日)：房大山登山コース・お花畑見学コース
に分かれて行動

●2月7日(土)

- 8回目を迎えた千葉、茨城、栃木、群馬の合同懇親会が2月7～8日、館山市西川名のホテル川端を会場に開かれた。37人が参加した。目の前には伊豆大島やピラミッド形の利島といった伊豆七島の島々が浮かび、伊豆半島もうっすら見えた。三原山は雪で真っ白。「数日前に降ったんだよ」と、漁港で寒天の材料となるテングサを干していたおばちゃんが話してくれた。懇談会の中で来賓の森武昭・日本山岳会会長が「若い人は山に行きたがっている。そのためには、困難に立ち向かう山岳会の良き伝統とともにすそ野を広げる努力も必要だ。若い人、これから山に登りたいという初心者たちを受け入れられるようなクラブを作るため、首都圏にある4支部のみなさんの活発な活動を期待する」とあいさつ。
- この後、各支部の活動報告があり、講演会では千葉支部が3年半をかけて実施した房総半島の分水嶺踏査について山行委員長が報告し、さらに「今は房総半島の郡界尾根を踏査中。今後は利根川や江戸川を遡るようなことにも挑戦していきたい」と支部活動を紹介した。

●2月8日(日)

【房大山登山コース：東京湾と太平洋の雄大な展望を堪能】

房大山は房総半島分水嶺踏査の最終目標となった山で山頂から分水嶺はほぼ一気に洲崎海岸に降りていく。低気圧が近づき雨が心配されたが、宿の人に「今日は午前中なら大丈夫ですよ」と声をかけられ、山行グループ22人は房大山に向かった。8:15登山開始。南側の根本集落から頂上の一等三角点を目指し、北側の坂田地区に抜けるコース。まず南房総特有の竹林の中を登り、しばらく行くとマテバシイ中心とした樹林帯。10:00前に頂上着。眼下には鏡が浦(東京湾)と太平洋、その向こうに伊豆大島を望む雄大な展望を堪能することが出来た。しばらく景色を楽しんだ後全員で一等三角点の標識を中心に記念写真を撮る。下山途中雨が降り出したが大した雨にはならなかった。従前からぬれていた道が滑りやすく慎重に進む。民間旅行社の登山ツアーに遭遇、20人位の一行が元気よく登って行った。10:40全員下山し坂田海岸に出る。そこに弁当屋さんが待望のくじら弁当を配達してくれた。

【お花畑コース：花摘みに歓声】

お花畑見学コースには11人が参加。ホテルから専用バスで平砂浦にある館山ファミリーパークへと移動。車窓右手は太平洋の荒波。強い風の影響で波がしらが白く飛び散る。左手はまるでカリフラワーのようなマテバシイに覆われた分水嶺の突端部の景色が広がる。園内に入場すると、黄色やオレンジ色のポピー畑だ。「ポピーの里」と言われるだけあって、そのスケールの広さに驚かされた。花摘みも出来、「つぼみの大きなものを選んでください」を係員から説明を受けると、はさみを借りてキンギョソウやストック等の春の花を両手に抱えるほど摘んでいた。《写真・文ともに千葉支部より転載》



第7回役員会・事業委員会

日時：2015年3月28日(土)16:00~17:00
場所：コンセーレ内タイムズスクエア
参加者：役員18名中15名

- 各種山行・支部HP準備状況・現在支部会員数が50名であること等の報告があった。また若葉山行報告もあったが、次年度から正式に「マスター

2015年度の活動の足跡

2015(平成27)年春山山行

日時：2015年4月18日(土)~19日(日)
場所：新潟県湯楡曾芝倉沢周辺／赤倉沢から白毛門(1720m)往復
宿泊は成蹊学園山の家「虹芝寮」
参加者：渡邊事務局長、前田F&Y、牛窪、上田、中村、長、北見、猿山H&M、麦倉、石井、仲島、鈴木、深谷、青山、村田、藤田(東京)、鬼頭、熊崎、佐藤、長島(成蹊山岳部踏高会) [22名]
行動概要
4/18(土)：土合山の家 13:00~13:30…虹芝寮 15:15、夕食準備・懇親会
4/19(日)：起床4:00、朝食5:00、出発5:30
【A班・E班：虹芝寮周辺散策・一ノ倉沢出合＝上田、中村、北見、前田Y、藤田、村田の6名】
虹芝寮 7:15…赤倉沢二股…虹芝寮 下山開始 10:00
【B班：赤倉沢散策＝長、石井、猿山Mの3名】
虹芝寮 5:30…赤倉沢左股…虹芝寮 下山開始 10:00
【C班：赤倉沢から白毛門登山＝深谷、牛窪、麦倉、前田F、仲島、鈴木、青山、鬼頭、熊崎、佐藤、長島の11名(牛窪は赤倉沢途中で下山)】
虹芝寮 5:30…白毛門頂上 8:00~9:40…虹芝寮 11:00 過ぎ
【D班：芝倉沢山スキー＝渡邊、猿山の2名】
虹芝寮 6:20…1800m 地点 10:00…虹芝寮 11:00
【下山】
○上田、中村、北見、前田Y、藤田、村田、長、石井、猿山M＝虹芝寮 10:00。長、石井は先に下り、土合山の家 12:00 発。他は 12:30 着。北見、村田は一ノ倉沢旧道出合まで登り旧道を下山…13:00 過ぎ土合山の家着。
○渡邊、牛窪、前田F、猿山H、麦倉、仲島、鈴木、青山、熊崎、佐藤、長島＝虹芝寮最終清掃・戸締まり後、虹芝寮 12:00 までに順次出発…土合山の家 13:30 集合、挨拶、解散

ズクラブ」として活動することになった。次年度当初の山行、ならびに通常総会について審議した。

- 山野井支部長から「健康状態がすぐれず支部長を辞めたい」との意向が示され、協議の結果、渡邊雄二現事務局長が支部長に、前田文彦委員が事務局長に、上田景子さんが支部委員になることが承認された。なお正式には支部総会で決定されることになる。また本部へは支部長変更届を提出し、さらに本部総会で紹介されて認可される予定。

【春山山行・懇親会報告】

- 2年連続の成蹊学園虹芝寮を拠点とした支部春山山行は、登山中は天候に恵まれ、赤倉沢から白毛門に登ることができた。昨年より2名多い22名の参加で、なかでも成蹊踏高会の3名の方は一緒に白毛門を登っていただき、感謝感激するしだい。
- 18日が栃木県岳連の総会と重なってしまったため、支部役員の主だった面々が参加できず残念だったが、昨年より早く2時間弱で虹芝寮に入ることができた。到着後は参加者全員の分担で薪ストーブを点火し、北見さん指導下にカレーを作り、テーブルを並べて手際よく懇親会の準備ができた。懇親会は牛窪さんの乾杯に始まり、参加者の自己紹介を含めて夜遅くまで、虹芝寮という雰囲気の中、懇談がいつものように続き、最後はどう閉めたのかわかりません。横になるスペースが足りず、納戸で寝た人もいた。
- 今年の春山山行は、今までの定例支部山行よりはややレベルの高い白毛門登山を組んだ。全員怪我なく下山することはできたが、後述するように赤倉沢で滑落が起きてしまった。運よく滑って行く先の立木に足から着地して止まることができ、幸い怪我もなかった。今後支部山行を安全に実施していくために、考えなければならないことがある。



【A班・E班(虹芝寮周辺散策・一ノ倉沢出合)】

- 白毛門班、芝倉沢班を送り、掃除を終えて7:15 小屋を出る。北見のガイドで赤倉沢を詰める。大きなデブリのところで引き返すと、谷川岳・一の倉岳・堅炭尾根が眼前に聳え立っていた。下山しかけたときに上部から声が…誰とははっきりわからなかったが…長・石井・真奈美さんだった。赤倉沢の入り口で合流。栃木の山より威圧感があり、大きな山塊に圧倒され、誰も何も言わなかった。
- 小屋に着いて、ドアのそばに置いておいた長のザックから古印もなかやおかしが開けられ食べられていた。前田のビニールの袋もかじられていた。猿に食べられたのかな？白毛門班、芝倉沢班へ伝言を書き 10:00 出発。小屋にサヨナラ。
- 一ノ倉沢の出合のところで旧道の一ノ倉沢まで行く予定が長・石井がいかに帰るとのことで、ここでサヨナラをした。旧道まで行くべくちょっと進み平らなところで 10:45 昼食。11:25 北見・村田が一ノ倉沢旧道へ向かい別行動になる。前田Y・中村・藤田・上田は出合まで戻り土合橋へ向かう。土合山の家 12:30 着。雨が降ってきた。
- 昼食後一ノ倉沢に向かう。11:45 一ノ倉沢に立つ。岩壁を眺め、しばし感慨に耽る。12:05 旧道を下る。出合付近は雪が消えていたものの、日陰は残っており、雪の上を歩く。マチガ沢では5つのグループが雪上訓練を行っていた。我々もやるべきかなと思うが年齢的にどうか。土合近くなって除雪作業が行われていた。13:05 土合橋の近くで鈴木より全員揃っているとの連絡が入る。我々の方が早いものと思っていたのにビックリ!!! 山の家 13:15 着。

【B班(赤倉沢散策)】

- 猿山Mがアイゼンがないので途中までの行動予定。逆ハの字に前を蹴りこむことを教えると急斜面でも上手についてくる。雪面は固かったので、緩む時間までと上がった。7:40 斜面の凹地で休憩。一ノ倉岳の後ろの真っ白な茂倉のピークと一ノ倉の大絶壁をバックに写真を撮る。8:00 下山開始。猿山Mには靴の下に日本手ぬぐいと綿のマフラーを巻いて降りてもらった。雪面も緩み、快適に下り、散策コースの方と川の処で合流。
- 途中一ノ倉又に行き絶壁を見に石井と先に帰る。ショウジョウバカマ・イワウチワの写真を撮って 11:40 車道に出る。車に戻る頃から雨になる。山の家駐車場 12:00 発。



4/19：虹芝寮前での集合写真



4/19：白毛門・赤倉沢出合から谷川岳稜線を望む

【C班(赤倉沢～白毛門登山)】

- 4:00 起床、朝食後簡単に掃除をし、5:30 虹芝寮の前で記念写真を撮り出発。予定では7:00 発が6:00 発に早まり、更に早まって5:35 の出発。快晴、無風の絶好のコンディション。メンバーは成蹊踏高会の3人を含めて11人。一緒に出発して途中まで行動を共にした長・石井・猿山Mの3人は、赤倉沢二俣で別行動となった。今回の雪山登山では、念願の白毛門登頂を果たし、無事下山できたこと、皆さまのお陰と感謝申し上げる。昨年初めて虹芝寮に宿泊し、眼前に迫る谷川や一ノ倉岳の山容に圧倒され、2日目の散策で赤倉沢に踏み込み、登高意欲に駆られた。アイゼン、ピッケルの装備もなく、途中下山し心残りがあった。今年はベテランでコースも熟知している踏高会の3人のアシストがあり、昨夜の自己紹介では途中まで一緒に楽しく登りたいと発言したが、出発時間が早まったことにより時間にも余裕ができ、これは登るしかないとの覚悟を決めた。

○早朝の雪面は軽く凍り、キックステップで進む。先行者の踏み跡を辿り、少しでも体力温存をする。湯檜曾川を遡り、対岸に渡り赤倉沢に入るが、スノーブリッジが2か所あり、楽々対岸に入る。途中デブリやクラックがあり、充分注意しながら6:10二俣着。標高900m地点でアイゼンを装着、ストックからピッケルに持ち替える。二俣は右に進む。何か所もデブリを見ながら急斜面と緩斜面を繰り返し、7:00に1200m地点で休憩。この後傾斜が増し、それぞれのペースで進むので、先頭と最後尾の差はどんどん開いていく。

○1700m地点の尾根に出るまで、私は1h30mかかった。先行者がつけたジグザグに切った踏み跡を忠実に辿り、一步一步自分のペースで標高をあげていく。途中一息つきながらの立ち休憩はしたものの、6本歯軽アイゼンの私は水分を摂る余裕がなく、ひたすら尾根を目指した。8:30絶景を見せてくれる尾根に到着。その先の頂上付近とその手前に人影が見え、実力の差を痛感する。水分を補給しおやつを食べ、山座同定を楽しむと、やっとピークハントの欲求が生まれ、一杯一杯の大腿四頭筋を労りながらゆっくり最後の登りにかかった。皆の待つ頂上には9:00到着。前田F・深谷が入れてくれたミルクティーが美味しかった。さらに遅れて登ってきた鈴木・青山と最後尾を守った麦倉が9:20頂上に到着して全員が揃う。出発時曇一つなかった空は白い雲に覆われたが、360度のパノラマで、谷川岳の全容が目の前に広がっていた。

○先行組は小屋の後片付けをするため、下山開始。亀組の3人は昼食を摂ってから、9:40下山開始。気温上昇により腐った雪面のため、アイゼンを脱ぎ、キックステップで下る。ザクザクと気持ちよくステップがきれるが、私は踏み損なって滑ったり、疲労からくるもつれを自覚しながら、ゆっくり下る。林間部では立ち木を目標物にしてそこまで重力に任せて下降し、一息ついて足の疲労、気持ちの疲労を和らげてからまた下る。樹林帯を抜けようとしたその時、私の後ろを歩いていたSが滑って転び、そのまま滑っていく。体を動かしながら停まろうとしたが、前方の立ち木を目指しまだ滑って行く。立ち木を利用して停まろうと一瞬のうちに判断したのか、追突のダメージの少ない体勢にもって



赤倉沢を登って稜線上を白毛門へと向かう



4/19：白毛門山頂にて

き、無事停止した。「怪我はない、歩ける、心配かけた」とすぐ叫んだので、ホッとした。言葉通り、何事もなく下山を続けた。10:40湯檜曾川の赤倉沢入口地点に到着。後はなだらかな雪道で緊張の糸を緩めた。虹芝寮11:00到着。

- 亀組3人の感想は、中高年のスピードながら、とにかく900mの標高差を3時間半で登り、2時間で下ることができた、嬉しい！の一言である。実力体力経験の差があり、亀組以外は、別格としか言いようがない。中高年の登山では、一番遅い人のペースに合わせ、雪山も数えるほどしかなく、雪山講習会に参加しても、毎年初心者のような私は、恥ずかしいことにデブリの言葉さえも分からなかった。稜線上を歩いていると、笠が岳方面の斜面がブロック雪崩を起こした跡も残り、雪山のリスクについても無知であると痛感した。
- 11:40お世話になった虹芝寮に別れを告げ、亀組3人は一足先に出発。土合山の家へ13:00着。

【D班(芝倉沢山スキー)】

- 朝食後、白毛門班の出発を見送り、のんびりお茶した後6:20虹芝寮を出発。芝倉沢の右岸をしばらく進むと前方に単独行の登山者がツボ足で登高していた。彼は結構良いペースで登って行き、しばらくすると私たちからは姿が見えなくなった。
- 我々は当初から登高は10:00までとし、そこからスキー滑走を楽しむことにしていたので周りの景気を楽しみながらのんびり行動である。振り返ると赤倉沢を登っている白毛門班の姿が遠望できた。白毛門・笠ヶ岳・朝日岳・清水峠に至る稜線が一望できる素晴らしい天候であった。温暖な天気が続いていたので、芝倉沢のデブリも例年より大規模でスキーを脱がざるを得ない場所もあった。
- 芝倉沢は登るにしたがって大きく左に曲がり一ノ倉岳へと突き上げている。途中2カ所ほどノド状の狭い谷になり、1800mまで登りつめると一ノ倉岳～茂倉岳の稜線直下となり展望が広がる。ここまででちょうど10:00。しばし休憩の後、芝倉沢の大滑降を楽しんだ。天候にも恵まれ、デブリはじゃまくさかったが、豪快な滑走を楽しむことができた。虹芝寮11:00着、白毛門班も下山してきており無事にスキー班の行動を終了した。



4/19：笠ヶ岳をバックに、スキー登高する猿山会員

第1回役員会・事業委員会

日時：2015年5月17日(日)15:00～
場所：宇都宮市『コンセーレ』タイムズスクエア
参加者：役員18名中15名

- 山野井支部長から新年度の挨拶をいただく。春山山行、山口富蔵氏(No.14652)が体調不良のため退会することが報告された。続いてこの後の通常総会の役割分担をした。さらに春山山行を踏まえて、支部山行のあり方と安全対策について協議した。



山野井支部長の挨拶

平成27年度総会、並びに懇親会

日時：2015年5月17日(日)16:00～19:20
場所：宇都宮市『コンセーレ』
3F 中会議室(総会)、2F カトルーム(懇親会)
参加者：総会26名、懇親会22名

- 神島委員の進行で始まり、山野井支部長の挨拶後、麦倉常治会員を議長に選び議事に入る。平成26年度事業報告(渡邊事務局長)・同決算報告(石澤委員)及び監査報告(牛窪監事)・平成27年度事業計画案(渡邊事務局長)・同予算案(石澤委員)が提案され、全議案ともに全会一致で承認された。「JAC YOUTH 栃木」については、年4回の山行計画・会員



小島委員



麦倉委員

増加案が深谷委員長から示された。また上田景子委員長のもと「マスタークラブ」の新設が承認された。すでに 2014 年 1 月から山行は始まっており、平日に山に行ける会員の受け皿として期待されていたものである。

- 今年度は任期 2 年の役員の改選時期にあたっており、すでに 3 月 28 日(土)の役員会で辞意を表明されていた山野井支部長が退任されて、渡邊雄二事務局長の支部長就任等、事務局の原案通りに承認された。他の役員については後述する。
- 前田委員(新事務局長)から、4 月の春山山行の反省を踏まえて、栃木支部の山行を安全に行うために、山岳保険の加入状況と個人資格の調査をする旨の提案があった。
- 最後に山野井現支部長から「昔の傷が出て、昨年の秋くらいから重傷になってきた。退会ではなく、役職だけを辞めさせていただくので、今後ともよしなに」との退任の挨拶があった。
- 会場を 2 F カトレアルームに移して、17:00 より懇親会となる。進行は前田新事務局長が行う。会員 22 名が参加、会員のスピーチ等も差し挟みながら終始なごやかに歓談が続いた。
- 総会内容の詳細は、後述する総会記事を参照してください。



渡邊事務局長



石澤委員



牛窪監事



前田委員



総会風景



懇親会風景



懇親会…坂口監事の音頭で乾杯

平成 26(2014)年度 総会の記録

日時：2014(平成 26)年 4 月 26 日(土)
 総会 16:00～【2Fカトレアホール】
 懇親会 17:00～【2Fバンケットホール】
 場所：コンセーレ【(一財)栃木県青年会館】

◇◇総会次第◇◇

進行：稲葉 昌弘

- 1 開会の言葉 小島 守夫
- 2 支部長挨拶 山野井 武夫
- 3 来賓挨拶 【理事長不在のため省略】
- 4 議長選出 議長：仲島 正子
- 5 議事

- (1)平成 25 年度事業報告について 渡邊 雄二
- (2)平成 25 年度決算報告について 石澤 好文
- (3)監査報告 坂口 三郎
- (4)平成 26 年度事業計画について 渡邊 雄二
- (5)平成 26 年度予算について 石澤 好文
- (6)JAC YOUTH 栃木の事業計画について 深谷 篤志
- (7)規約の一部改正について 渡邊 雄二
- (8)その他

- 6 閉会の言葉 牛窪 光政

◇◇懇親会次第◇◇

進行：石澤 好文

- 1 開会の言葉 前田 文彦
- 2 顧問挨拶 (略)
- 3 乾杯 日下田 實
- 懇談 (会員によるスピーチ)
- 4 閉会の言葉 神島 仁誓

※なお議事については、全て原案通り承認された。

栃木支部役員

顧問	日下田 實(4146)
支部長	山野井 武夫(4633)
副支部長	渡邊 雄二(7914)(事務局長)
委員	小島 守夫(6189)
	前田 文彦(8432)
	石澤 好文(9265)(会計)
	山本 武志(9350)
	仙石 富英(10459)
	神島 仁誓(14438)
会計監事	坂口 三郎(7973)
	牛窪 光政(8386)

○各委員会委員

支部自然保護	委員長 石澤 好文(9265)
	委員 蓮實 淳夫(10885)
	委員 東 和之(14483)

山の日プロジェクト	委員長 麦倉 常治(14529)
	委員 猿山 浩(14518)
	委員 後藤 尚(14536)
事業委員会	委員長 麦倉 常治(14529)
	委員 前田 文彦(8432)
	委員 石澤 好文(9265)
	委員 上田 景子(10416)
	委員 仙石 富英(10459)
	委員 神島 仁誓(14438)
	委員 猿山 浩(14518)
	委員 稲葉 昌弘(14527)
	委員 後藤 尚(14536)
	委員 仲島 正子(14679)
JAC YOUTH 委員会	委員長 深谷 篤志(15212)
	委員 麦倉 常治(14529)

平成 26(2014)年度事業計画

- 1 栃木支部報第 7 号発行 H26・04・01
- 2 春山登山 H26・04・12～13
- 3 平成 26 年度総会 H26・04・26
- 4 第 7 回山岳映画の夕べ H26・06・28
- 5 日光山系清掃登山 H26・07・06
- 6 親子登山教室 H26・07・19～20
- 7 夏山山行・懇親会 H26・08・23～24
- 8 那須岳クリーンキャンペーン H26・09・07
- 9 秋山山行 H26・09・13～14
- 10 第 6 回ヒマラヤの集い H26・11・29
- 11 第 8 回秋季講演会 H26・12・14
- 12 新年会・冬山山行 H27・01・24～25
- 13 四支部合同懇談会 H27・02・07～08

平成 26(2014)年度予算

I 収入 380,000円

(内訳)支部会費 100,000円(@2,000円×50人)
 助成金 125,000円(@2,500円×50人)
 繰越金 140,659円
 雑収入 14,341円

II 支出 380,000円

(内訳)通信費 80,000円(総会,支部通信の郵送費等)
 事業費 250,000円(講演会・支部だより等)
 会議費 25,000円(総会,集会の会場費等)
 消耗品費 15,000円(事務用品等)
 予備費 10,000円

III 残額 0円

平成 27(2015)年度 総会の記録

日時：2015(平成 27)年 5月 17日(日)
 総会 16:00～【3F 中会議室】
 懇親会 17:00～【2F カトレアルーム】
 場所：コンセーレ【(一財) 栃木県青年会館】

◇◇総会次第◇◇

進行：神島 仁誓

- 1 開会の言葉 小島 守夫
- 2 支部長挨拶 山野井 武夫
- 3 来賓挨拶 【理事長不在のため省略】
- 4 議長選出 議長：麦倉 常治
- 5 議事
 - (1)平成 26 年度事業報告について 渡邊 雄二
 - (2)平成 26 年度決算報告について 石澤 好文
 - (3)監査報告 牛窪 光政
 - (4)平成 27 年度事業計画について 渡邊 雄二
 - (5)平成 27 年度予算について 石澤 好文
 - (6)JAC YOUTH 栃木の事業計画について 深谷 篤志
 - (7)マスターズクラブの設置について 上田 景子
 - (8)平 27・28 年度役員改選について 渡邊 雄二
 - (9)その他

- 6 支部長退任挨拶 山野井 武夫
- 7 閉会の言葉 牛窪 光政

◇◇懇親会次第◇◇

進行：前田 文彦

- 1 開会の言葉 仙石 富英
- 2 挨拶 牛窪 光政
- 3 乾杯 坂口 三郎
懇談 (会員によるスピーチ)
- 4 閉会の言葉 稲葉 昌弘

※なお議事については、全て原案通り承認された。

栃木支部役員

顧問	日下田 實(4146)
顧問	山野井 武夫(4633)
支部長	渡邊 雄二(7914)
委員	小島 守夫(6189)
	前田 文彦(8432) (事務局長)
	石沢 好文(9265) (会計)
	山本 武志(9350)
	上田 景子(10416)
	仙石 富英(10459)
	神島 仁誓(14438)
会計監事	坂口 三郎(7973)
	牛窪 光政(8386)

○各委員会委員

支部自然保護	委員長 石澤 好文(9265)
	委員 蓮實 淳夫(10885)
	委員 東 和之(14483)
山の日プロジェクト	委員長 麦倉 常治(14529)

事業委員会	委員 猿山 浩(14518)
	委員 後藤 尚(14536)
	委員長 麦倉 常治(14529)
	委員 前田 文彦(8432)
	委員 石澤 好文(9265)
	委員 上田 景子(10416)
	委員 仙石 富英(10459)
	委員 神島 仁誓(14438)
	委員 猿山 浩(14518)
	委員 稲葉 昌弘(14527)
	委員 後藤 尚(14536)
	委員 仲島 正子(14679)
	JAC YOUTH 委員会
	委員 麦倉 常治(14529)
マスターズクラブ	委員長 上田 景子(10416)
	委員 前田 洋子(8383)
	委員 長 百合子(12466)

平成 27(2015)年度事業計画

- 1 栃木支部報第 8 号発行 H27・05・17
- 2 春山登山 H27・04・18～19
- 3 平成 26 年度総会 H27・05・17
- 4 第 7 回山岳映画の夕べ H27・06・28
- 5 日光山系清掃登山 H27・07・05
- 6 親子登山教室 H27・07・18～19
- 7 夏山山行・懇親会 H27・08・22～23
- 8 那須岳クリーンキャンペーン H27・09・06
- 9 秋山山行 H27・11・08
- 10 第 7 回ヒマラヤの集い H27・12・13
- 11 第 9 回秋季講演会 H27・11・29
- 12 新年会・冬山山行 H28・01・09～10
- 13 第 9 回四支部合同懇談会 H28・02・06～07

平成 26(2014)年度予算

I 収入 360,000円

(内訳) 支部会費 96,000 円 (@2,000 円×48 人)
 助成金 112,500 円 (@2,500 円×45 人)
 繰越金 132,768 円
 雑収入 18,732 円

II 支出 360,000円

(内訳) 通信費 80,000 円 (総会、支部通信の郵送費等)
 事業費 200,000 円 (講演会・支部だより等)
 会議費 30,000 円 (総会、集会の会場費等)
 消耗品費 40,000 円 (事務用品等)
 予備費 10,000 円

III 残 額 0円

『登山月報』に仙石さんが寄稿されています！！！！

「山の日」制定記念 —ふるさとの山に登ろう—

栃木県・古賀志山(583m)……仙石富英

「山の日」制定記念特集ということで原稿を依頼されたが、「ふるさとの山」として考えると、はたしてどの山が一番適切な山になるのかと考えてしまった。栃木県は地形的に関東平野の中北部にあり、北西部は群馬県、福島県に接し、2000mを超える山々に囲まれ、東部は茨城県と八溝山系で接している。日光地区では関東以北で最も標高の高い白根山(奥白根山:2577m)をはじめとし、日光を代表する男体山(2486m)、太郎山(2367.5m)や女峰山(2483m)がある。また県北には茶臼岳(1915m)を中心に那須五峰(他に朝日岳・三本槍岳・黒尾谷岳・南月山)と呼ばれる山々が連なる。一方、県央から南に東西は平野部の豊かな自然を残した里山にも恵まれている。

あらためて「ふるさとの山」と考えると、「山、高きが故に尊からず」で、必ずしも高い山が当てはまるものではなく、そこに住む人それぞれに生活とつながった「ふるさとの山」があると思っている。2003年末に地元の下野新聞創刊120周年記念事業として栃木県山岳連盟も加わり、広く読者から推薦された「栃木百名山」の選定が行われ、2005年に「栃木百名山」として刊行された。これには、選定の条件として、登山、ハイキングとして親しまれている山、各地から眺望できる山、伝説や信仰の対象となっている山などが含まれていた。このため、今ではすべての山で登山道が開かれているが、選定時点では「百名山」といっても必ずしも登山されている山ではなく、登山道がなく、登山口もわかりにくい山も含まれていた。当然ながら、ここにも応募した人の「ふるさとの山」への思いが表れていた。前置きが長くなってしまったが、ここでは個人的ではあるが、私の住む宇都宮市の西部にある「古賀志山(583m)」を紹介したいと思う。

「古賀志山」は、宇都宮市の北西部に位置し、足尾山地の東端部をなしている。地質的には中・古生層の層状チャート、頁岩などからなり、南島側には緑色凝灰岩が変質した「大谷石」が産出される。このため、古くから関東の岩場として、ロッククライミングのゲレンデとして知られ、登り方は変わってきているが、今でも多くのクライマーのトレーニング場とし

て親しまれている。登山としては、山頂から東の麓に宇都宮市森林公園、赤川ダムができてから、駐車場や施設が整備され、ここを中心に多くの家族連れの高ハイキングや一般の登山者に親しまれ、県外からの登山者も多く訪れている。最近ではジャパンカップサイクルードレースの公認コースの会場地としても知られている。この山麓では、古くから聖なる地域として崇められ、信仰に関わる樹木等も多く、民話や歴史を調べて登山をすることも、ふるさとの山に対する理解を深めることになると思う。

古賀志山はスギの植林も広がり、その作業道も多いことと、入山者が増えたことと重なり、森林公園管理事務所が紹介している赤川ダムからの登山コース以外に無数のコースができています。基本的には南コース、北コースで、他に中尾根コース、東稜コース、南から不動の滝を通る滝コースもあるが、これから派生した地図上にないコースがクモの巣のようにできており、標識も少ないため、低山とはいえ現在地を確かめるのに読図力が試される。地図を持たずに道なりに登る人も多いが、思い通りのコースが取れずに踏み跡的な道で、いきなり崖に遭遇することもあり、注意が必要である。落葉の時期は見通しがきくため、行く先が見えるが、夏など下草が茂ってくると先が見えにくくなるため、コースを確認して登ることが大切である。山頂からは関東平野南方に条件が良ければスカイツリーも見える。いずれにしても、家族連れから中高年登山者の健康登山、ベテランのトレーニングの場として、身近な愛される山である。

『登山月報』：日本山岳協会発行。
2015(平成27)年4月のNo.553号に
仙石さんの文は掲載されている。



◇◇◇栃木支部会員◇◇◇

No.	会員番号	氏名	備考
1	4146	日下田 實	顧問
2	4255	堀越 利男	
3	4633	山野井 武夫	支部長
4	4661	森 元一	
5	6189	小島 守夫	委員
6	6956	井上 孝郎	
7	7914	渡邊 雄二	事務局長
8	7973	坂口 三郎	監事
9	8282	上野川孝一	
10	8383	前田 洋子	
11	8386	牛窪 光政	監事
12	8432	前田 文彦	委員
13	9265	石沢 好文	委員(自然保護)
14	9267	臼田 徳雄	
15	9307	佐藤 清衛	
16	9350	山本 武志	委員
17	10416	上田 景子	事業
18	10459	仙石 富英	委員
19	10885	蓮實 淳夫	自然保護
20	10909	中村 靖弘	
21	11381	関根 和男	
22	11402	渡辺 剛	
23	12503	菱田 克彦	
24	13906	吉田 春彦	
25	14400	梶谷 博	
26	14419	斎藤 隆	
27	14438	神島 仁誓	委員
28	12466	長 百合子	
29	14475	北見 正光	
30	14483	東 和之	自然保護
31	14510	桑野 正光	
32	14518	猿山 浩	事業(山)
33	14527	稲葉 昌弘	事業
34	14529	麦倉 常治	事業(山)
35	14536	後藤 尚	事業(山)
36	14626	内間 茂	
37	14646	杉田 茂久	
38	14650	早川 和子	
39	14656	石井シモ子	
40	14667	増渕 仁一	
41	14674	船村 徹	
42	14679	仲畠 正子	事業
43	14681	吉澤 照子	
44	14721	鈴木 清一	
45	15212	深谷 篤志	事業(YOUTH)
46	15382	深谷 優子	
47	15384	君島 敏明	
48	15456	青山 孝雄	
49	15625	村田 美代	

【2015(平成27)年4月1日現在】

事務局より

◎2014年9月7日(日)の那須クリーンキャン
ペーンを追記します。

○天気がもったので、予定通り実施した。

《日程》開会式 7:30～行動開始 8:00～
行動終了 12:00

《内容》毎年恒例の行事だが、今年度はゴミ拾いだけでなく、登山道整備も行った。峠の茶屋駐車場から峰の茶屋経由で鉄杭やトラロープなどを分担して運び、茶臼岳頂上付近の登山道に杭を打ち、ロープを張った。これにより、道迷いや植物の踏み荒らしが減ることを期待したいものである。

○『栃木支部報』第8号をかなり遅れてみなさんにお届けすることになりました。従来は総会当日に配布していましたが、当該年度の総会の決定事項を含めて発行しようということになったわけですが、大幅に遅れてしまいました。

○各事業記録担当者が報告書のデータをメール等で送付していただけるので助かっています。ただし、スペースの関係で各事業報告をそのまま掲載することはできませんので、編集担当が適宜省略したり、できるだけ文面を統一するために文言を変更したりしておりますので、ご了承ください。

○事業が終了しましたら報告書を作成されることかと存じますが、報告書と写真等を必ずメールにて送信いただきますようお願いいたします。当方のメールアドレスです。

kami-jin@sepia.plala.or.jp

○毎回苦勞するのが会員投稿のページです。是非とも多くの会員から貴重な原稿をお寄せいただきたいと思っています。

○この他にもいろいろなページを考えたいと思います。個人山行の文・写真、ご自分でこだわって調べていること、私のこだわりの趣味等々、新企画のご提案等がありましたらご遠慮なさらずにご一報下さい。みんなで支部報を作り上げましょう！！

☆☆あとかぎ☆☆

●楽しい企画のご提案、山行等の玉稿があればどしどしお寄せください。(カミジン)

